

平成 27 年度
社会福祉法人鈴鹿聖十字会
事業報告書

I. はじめに

社会福祉法人鈴鹿聖十字会は、福祉や医療サービスを必要とする方々に寄り添い、その声に耳を傾け、人間性、尊厳、さらにはその方の生きる権利を最大限に尊重する医療・保健・福祉サービスを総合的に提供できる体制を整備し、地域住民の安心を生み出す福祉医療の拠点となることを目標とし、平成 27 年度は以下のことを実施した。

II. 平成 27 年度実施事業

1. 社会福祉事業

(1) 第 1 種社会福祉事業

- ・ 特別養護老人ホームの経営
(鈴鹿聖十字の家、菰野聖十字の家、聖十字四日市老人福祉施設)
- ・ 障害者支援施設の経営
(障害者支援施設 菰野聖十字の家)
- ・ ケアハウスの経営
(ケアハウス 白百合ハイツ)

(2) 第 2 種社会福祉事業

- ・ 認定こども園の経営 (聖マリアこども園)
- ・ 介護老人保健施設の経営 (聖十字ハイツ)
- ・ 老人居宅介護等事業の経営 (鈴鹿聖十字の家)
- ・ 老人短期入所事業の経営 (鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家・聖十字四日市老人福祉施設)
- ・ 障害福祉サービス事業の経営 (菰野聖十字の家)
- ・ 老人デイサービスセンターの経営 (聖十字保々在宅介護サービスセンター)
- ・ 老人介護支援センターの経営 (聖十字保々在宅介護サービスセンター)
- ・ 病児保育事業の経営 (聖マリアこども園)
- ・ 特定相談支援事業の経営 (障害者相談支援事業所菰野聖十字の家)
- ・ 障害児相談支援事業の経営 (障害者相談支援事業所菰野聖十字の家)

2. 公益事業

- ・ 診療所の経営 (菰野聖十字の家診療所)
- ・ 居宅介護支援事業 (聖十字保々在宅介護サービスセンター)
- ・ 病院の経営 (三重聖十字病院)
- ・ 訪問看護事業・介護予防訪問看護事業 (三重聖十字病院)

Ⅲ. 事業の主な動き

1. 法人全体の主な動き

① さらなる利用者満足度向上のための教育・研修および連携会議の実施

法人全体で実施する研修、そしてその具体的な展開のための各施設での教育訓練を積極的に実施し、社会福祉法人職員として、利用者の人権を守り、地域でのより良い生活を実現できる知識・技術の獲得を目指した。また各施設長による連携会議を毎月実施し、各施設間のマネジメント手法の統一を図るとともに、職員間において技術の研鑽や相互牽制が可能となるシステムの構築を進めていった。

② 法人内マネジメントシステムを活用した客観的根拠に基づく事業経営の実施

- (1) 施設整備の充実
- (2) 教育・研修の充実と職員のレベルアップ
- (3) リスク管理の強化
- (4) 財務・経理管理の改善
- (5) 給食センター・洗濯センター運営体制の充実
- (6) 法人内各施設間連携・内部監査の充実
- (7) 広報活動（ホームページなど）の充実

上記の項目について、法人および各施設で具体的な取り組みを進めた。27年度は、鈴鹿聖十字の家の個室ユニット化に伴う改築工事を実施し、平成28年秋の完成に向けてさらなる地域住民の多様な福祉ニーズに貢献できる体制を整えた。また、法人本部にて「太陽光発電システム」を導入し、菰野町で事業を実施する5施設合計で年間約570万円程度の電気代の削減を実施する体制を整備した。

③ 職員の資質・意欲向上のための「キャリアパス制度」の充実及び処遇改善の実施

職員が将来展望を持って働き続けることができるよう、人事・給与体系やキャリア形成のための明確な人事考課体制や教育研修体制を確立し、職員一人ひとりの明確な評価・目標管理を組織として継続的に実施し、能力、資格、経験等に応じた効果的なキャリアアップ体制を整備するとともに、介護職員についての新しい処遇改善加算を算定し、職員一人当たり12,000円程度の給与改善を実施した。

④ 経営基盤及び各施設間連携の強化

利用者が真に必要とする安心・安全なサービス展開に務めた。そのために、理事長、各施設長による「施設長会議」を毎月開催し、各施設の課題や利用者の満足度向上、職員の教育方法、さらには稼働率アップのための具体的方法について検討した。さらに、各施設長による「施設連携会議」、事務責任者による「事務主任会議」を開催し、各施設での取り組み内容や、成功事例等を積極的に共有するとともに、的確な事務処理、稼働率の管理を行うための会議を実施し、利用者に対する具体的なサービスの資質向上と、コンプライアンスの徹底を図った。

2. 会議

当法人の適切な運営のために次の会議を開催した。

- (1) 理事会 年2回(5月、2月)
- (2) 評議員会 年2回(5月、2月)

3. 教育・研究

- (1) 施設長等を対象に、マネジメント能力の向上を図るための研修会議を毎月開催した。
- (2) 認知症ケアについての考え方や具体的技術を学ぶために、外部講師を招き、研修会を開催した。(4、5、6月開催)
- (3) 職員の資質向上をめざし、各施設でテーマ別に専門研修を実施した。

4. 監査

定款・諸規定等に従い以下のとおり監査を実施した。

- (1) 監事監査(5月)、税理士監査(5月)
- (2) ISO第7回定期サーベイランス(9月:三重聖十字病院)

5. 広報

機関紙およびインターネット等を活用して、情報公開を行うとともに、福祉・医療に関する理解と参加を促進する広報活動を行った。(菰野聖十字の家『そよ風』・鈴鹿聖十字の家『すばる』・聖十字ハイツ『もみの木』の発行、各施設ホームページなど)

6. 地域との連携・交流・ボランティアの受け入れ

地域包括ケアの具体的な推進を目指し、菰野町で開催される「地域ケア会議」に参加し、地域での情報共有および連携を図った。また、平成29年度からの社会福祉法改正に伴う地域における公益的な取り組みについての具体的な検討を始めるための会議である「菰野町社会福祉法人連絡協議会」を、菰野町社会福祉協議会や他の社会福祉法人と共に設置し、検討を進めた。

さらに、地域の中では、地域住民の方々やボランティアの方とともに支え合いの仕組みを構築することができるよう、以下のことを実施した。

- ① 5月家族交流会 (5月3日)
- ② 盆踊り (7月25日)
- ③ メリノール女学院奉仕活動 (7月3日)
- ④ こども園・施設・地域合同運動会 (10月10日)
- ⑤ ホーム喫茶 (毎月1回)

IV. 新規事業の展開

1. 特別養護老人ホーム鈴鹿聖十字の家の個室・ユニット化に伴う改築の実施に向けて、検討・準備を進め、工事を開始した。(平成 28 年秋完成予定)

平成27年度
特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家
事業報告書

I. 事業内容

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 定員60名
居宅介護支援事業

II. 事業内容全般

「施設を利用される皆様が安全に、安心して、楽しく生活していただくために、優しく、親切で丁寧なサービスを提供する」ことを基本方針として、認知症ケアや終末期ケアに積極的に取り組んだ。

III. 具体的な事業実施内容

1. 終末期ケアへの取り組み

（計画内容）

終末期ケアに積極的に取り組む。

（実施状況）

- ・入居時に終末期ケアに関する説明、意向確認を丁寧に行い、ご本人、ご家族にとって悔いのない選択ができるよう援助した。
- ・関係する多職種（医師を含む）の連携により、苦痛を和らげ、清潔を維持するためのケアを、心身状態に応じて行い、安らかにお過ごしいただけるようにした。
- ・生活相談員を中心に、ご家族への状況報告を綿密に、かつ丁寧に行った。
- ・死後処置を実施するにあたっては、特定の職員ばかりにならないようにし、経験の少ない職員にも理解を深めるようにした。

2. 日々の生活のなかでの健康維持に向けた取り組み

（計画内容）

入居者一人ひとりの健康維持のため、脱水、尿路感染症、誤嚥の予防に徹底的に取り組む。

（実施状況）

- ・一日の水分補給目安は1200ml～1500mlとし、摂取量の少ない方にも、喜んで飲んでいただけるように工夫した。
- ・安易なおむつ使用をせず、トイレでの排泄ケアに取り組み、陰部清潔の保持に努める。食事時の姿勢、介助方法、食事内容を細かく見直すとともに、食事以外のときの状況にも注意して、誤嚥の危険性を極力減少させるように取り組んだ。

3. 事故の防止・感染症の予防

(計画内容)

安全に生活していただけるよう、介護事故予防・感染症蔓延予防に取り組む。

(実施状況)

- ・事故件数が前年を下回るよう、その予防に取り組んだ。事故報告件数は、非常に軽微なものも含めて163件となり、前年度を上回ってしまった。介護事故予防委員会を中心に取り組みを強化していくことが必要となる。
- ・感染症予防については早めからの対策を行い、施設内で感染症が流行することなく順調に推移していたが、年度末の3月になってから、ショートステイ利用者の方で、同居のご家族全員がインフルエンザ感染されていたにもかかわらず、担当居宅介護支援専門員およびご家族より情報提供がないまま緊急的に受け入れたところ、翌日に当該利用者が発症、感染対応を行ったものの、時間をおいて入居者3名に感染した。幸いすべて軽症であり、重症化せずに完治した。

4. 心身機能の維持

(計画内容)

現在の心身機能が維持でき、たとえ体調を崩されても、症状安定後に元の生活に戻っていただけるように取り組む。

(実施状況)

- ・体調を崩された方に対し、安定後の離床促進、歩行可能な方の歩行促進等により、早めに以前の生活様式を取り戻していただくよう取り組んだ。

5. 食事サービスの向上

(計画内容)

楽しく、安全に召し上がっていただける食事の提供を目指し、改善に取り組む。

(実施状況)

- ・食事に関して意欲を持っていただけるように、嗜好に応じた献立の作成したほか、月に1回以上の行事・イベント食を実施した。

6. 環境の維持と経費の管理

(計画内容)

利用者に安全に安心して生活していただくため、施設内環境の管理を徹底的に行う。また、電気・ガスの使用量が前年を上回らないように管理する。

(実施状況)

- ・温度・湿度の値が基準値から外れることのないよう、毎日監視を実施した。
※基準値：夏季温度 27.5℃～28.5℃ 湿度 40%～60%
 - ・冬期温度 20.0℃（夜間 18.0℃）～23.0℃ 湿度 35%～50%
- 温度・湿度に変動がみられるときは、換気や冷暖房の調整を行って、安定した環

境を維持する。館内の温度・湿度を毎日測定し、季節に合わせて窓の開閉による換気、冷暖房の調節を細かく行った。また、冬期は加湿器を使用し、湿度を保つように心がけた。

- ・館内温度は夏季 28.5℃を上限に、冬期 20.0℃を下限とし、湿度は 40%以上を目安とするよう調整した。
- ・電気・ガスの使用量、料金を毎月確認し、その推移や前年との比較を行い、無駄な使用を止めるなど、適切な管理を行い、電気について前年度対比で使用量を 4.9%、料金を 10.8%削減することができた。ガスに関しても、前年度対比で使用料を 5.7%、料金を 17.9%削減できた。

7. 稼働率の向上

(計画内容)

運営の安定化を図るため、稼働率目標を 98.0%とし、ベッド管理を行う。

(実施状況)

ベッド稼働率状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入居	98.8	98.2	99.6	98.8	99.0	99.2	97.6	94.5	96.1	95.1	95.5	97.6
合計	98.9	97.5	99.3	99.0	99.1	99.0	96.3	94.8	96.8	94.5	96.2	99.1

特養 60 床の通年稼働率は 96.6%、短期入所との合計で 97.4%となり、目標には達しなかった。鈴鹿市内に新施設が開設され、一時的に利用待機の方が減少したことが原因と考えられる。

7. 居宅介護支援事業の拡大

(計画内容)

居宅介護支援の利用者数を増加させる。請求人数は月平均 30 名以上、要介護認定訪問調査件数を 15 件以上とする。

(実施状況)

居宅介護支援事業利用者は予防支援も含め月平均 27.8 名、要介護認定訪問調査件数は月平均 14.8 件であり、ともに前年度を上回ったが、目標をクリアすることができなかった。

IV. 地域社会との連携

1 ボランティアとの連携

団体及び個人の皆様方に、クラブ活動、施設内行事、外出行事および施設敷地内

の草刈り、庭木剪定等のご協力をいただいた。

(1) ご協力いただいた団体・個人

みえ琴友会様・鈴鹿教会様・川北様・石薬師高校ボランティア部様・東海道石薬師大木神社太鼓連様・石薬師シニアフォークダンス様・木田町老人会様・ エスポワール吹奏楽団様・千代崎中学校様・第二石薬師保育園様

2 地域交流

(1) 大正琴の会（毎月1回）：みえ琴友会様

(2) 鈴鹿教会（毎月1回）

(3) 春の家族会（5月10日）：石薬師高校様、東海道石薬師大木神社太鼓連様

(4) 鈴鹿市ワークキャンプ《社会福祉協議会主催》（7月28日～29日）

(5) 石薬師シニアフォークダンス（8月8日）

(6) 木田町老人会園内清掃作業（9月12日）

(7) エスポワール吹奏楽団（9月20日）

(8) 千代崎中学校来訪（12月22日）

(9) 入居者と保育園児の交流会（3月7日）：第二石薬師保育園様

(10) 実習及び福祉体験受入れ

鈴鹿医療科学大学、専門学校ユマニテク医療福祉大学、石薬師高校、神戸中学校

V. 資料

資料1：特養入居者の状況

① 月別入居者数

(平成27年度)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月初人数		60	60	59	59	59	60	60	58	58	55	58	58	704
入居		2	1	1	1	2	1	1	2	1	3	4	2	21
退居	死亡	2	2	1	1	1	1	3	2	4	0	4	1	22
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

② 年齢別男女入居者数

平成28年3月31日現在

	64歳 以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 100歳	100歳 以上	合 計
男性	1	1	2	6	1	0	11
女性	0	2	3	25	17	1	48
合計	1	3	5	31	18	1	59

③ 要介護度別入居者数

平成28年3月31日現在

	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合 計
男性	1	1	5	4	0	11
女性	1	0	15	18	14	48
合計	2	1	20	22	14	59

④ 入居期間の状況

平成28年3月31日現在

	1年未満	1年～	3年～	5年～	8年～	合 計	平均期間
男性	4	6	1	0	0	11	1年2ヶ月
女性	11	20	12	4	1	48	2年6ヶ月
合計	15	26	13	4	1	59	2年3ヶ月

⑤ 保険者別入居者数

平成28年3月31日現在

保 険 者 名	入 居 者 数		合 計
	男 性	女 性	
鈴鹿亀山地区広域連合	9	42	51
津 市	0	3	3
四日市市	2	3	5
合 計	11	48	59

資料2：行事開催状況

- 4月 2日 お花見
- 5月10日 家族会（若葉の会）
- 7月 7日 七夕昼食会
- 8月20日 納涼会
- 9月21日 ショッピング（鈴鹿ハンター）
- 9月21日 敬老会
- 10月 5日 運動会

- 10月10日 ふれあい広場
- 10月22日 鈴亀地区老施協交流会
- 11月 9日 外出行事
- 11月12日 焼き芋の会
- 12月14日 忘年会
- 12月24日 クリスマス会
- 12月28日 餅つき
- 1月11日 新年会
- 2月 3日 節分豆まき
- 3月 3日 ひな祭り
- 毎月1回 昼食バイキングまたは季節の行事食・お誕生会・喫茶

資料3：居宅介護支援事業の状況

居宅介護支援事業の利用者数 (平成27年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	8	9	9	9	8	8	8	8	7	8	8	7	97
女	17	18	17	18	17	17	16	16	17	17	17	16	203
計	25	27	26	27	25	25	24	24	24	25	25	23	300

地域包括支援センターからの委託による要支援者の利用者数 (平成27年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	32
計	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	32

資料4：職員の専門性向上のための研修受講状況

① 施設外研修

- (1) 6月2日、10月6日 職員1名
鈴鹿北部地域包括支援センター 事例検討会 (鈴鹿市)
- (2) 6月4日 職員1名
鈴亀地区居宅介護事業所・介護支援専門員連絡協議会 講演
内容：「How to IPW(多職種連携)」(鈴鹿市)
- (3) 7月15日 職員1名
鈴亀地区老人福祉施設協会 第1回施設職員研修会 (鈴鹿市)
内容：「地震災害について」

- (4) 7月16日、11月19日 職員1名
 鈴亀地区地域包括支援センター 権利擁護研修会（鈴鹿市）
 内容：7/16 「日常生活自立支援事業について」
 11/19 「権利擁護の視点が必要となる事例検討」
- (5) 7月27日～29日（講義）（愛知県）
 8月17日～21日（実習）（四日市市）
 ユニットリーダー研修 職員1名
- (6) 9月9日 職員1名
 鈴亀地区広域連合 認定調査員現任者研修会（鈴鹿市）
- (7) 9月29日 職員1名
 鈴鹿保健所 給食施設管理者研修会（津市）
 内容：「給食施設における災害対策」
- (8) 11月10日 職員2名
 鈴亀地区老人福祉施設協会 県外視察研修（福井県）
 視察先：社会福祉法人 光道園
- (9) 12月3日 職員1名
 三重県社会福祉事業職員共済会（津市）
 内容：退職手当共済制度実務研修会
- (10) 12月7日 職員1名
 中部ユニットケア研究会事務局 実践報告会（愛知県）
 内容：「ユニットケア実践塾」
 ～もう一度考えてみよう ユニットケアの可能性を！～
- (11) 12月11日 職員1名
 北勢地区老人福祉施設研究協議会 栄養士研修会（四日市市）
 内容：「策定者から学ぶ『日本人の食事摂取基準(2015年版)』数値の理由がわかればこんなにわかりやすく使いやすい」
- (12) 12月16日 職員1名
 鈴亀地区老人福祉施設協会 第2回施設職員研修会（鈴鹿市）
 内容：「虐待防止と権利擁護に向けた私たちの取り組み」
- (13) 12月16日～18日（講義）（愛知県）
 1月11日～15日（実習）（津市）
 ユニットリーダー研修 職員1名
- (14) 12月17日～18日 職員1名
 日本介護福祉士会 全国大会 in みえ（桑名市）
 内容「生きがい やりがい 働きがい」
 ～地域・全国・世界へ介護の魅力伝えよう～

- (15) 2月25日 職員1名
鈴鹿保健所 給食施設従事者研修会（鈴鹿市）
内容：「災害時の食中毒対策を考える」

② 施設内研修（各部署に資料配布）

- (1) 12月 介護職員全員
内容：「認知症の方に対する理解」
- (2) 1月 介護職員全員
内容：「身体拘束の廃止について」
- (3) 2月 介護職員全員
内容：「高齢者虐待」

平成27年度
鈴鹿聖十字の家 老人短期入所施設事業
事業報告書

I. 事業内容

老人短期入所施設事業（短期入所生活介護） 2床

II. 事業内容全般

居宅において生活されている要介護または要支援状態の利用者に対し、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護やその他の日常生活上のお世話や機能訓練を行い、利用者の心身の維持ならびにご家族の身体的および精神的負担の軽減を図るように取り組んだ。

III. 具体的な事業実施内容

1. 稼働率の向上

（計画内容）

運営の安定化を図るため、稼働率目標を特養と合わせ 97.5%とし、ベッド管理を行う。

（実施状況）

緊急ケースへの積極的な対応と近隣の事業所へのPR活動や情報提供などを実施しながら安定した稼働率を目指した。短期単独で見ると、空床利用を含めて 98.4%であったが、通常のショートベッドが2床しかないため、特養の入院に対する空床を埋める利用者の確保が難しく、入居との年間総合稼働率は 97.5%となり目標を下回ってしまった。

2. 事故の防止

（計画内容）

事故発生件数を前年度以下にし、ヒヤリハット報告件数を前年度より1割増加させる。

（実施状況）

細かな内容であっても事故報告書を記録し、職員間で周知することで、事故の減少に取り組んだ。事故件数4件で前年度比3件増加という結果となった。ヒヤリハット報告は前年度4件から0件と減少した。

3. 苦情について

（計画内容）

利用者・家族からの苦情に関して丁寧に対応し、苦情をとおして施設サービスの改善を図る。

(実施状況)

今年度は、サービスに関する苦情はなかった。

VI. 資料

1 サービスの延べ利用人数（人）

(平成27年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
定員 (2床×日数)	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	58	62	732	
延べ 利用 人数	要支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	1	0	0	0	7	8	0	2	30	20	0	0	67	
	2	20	18	18	33	34	23	8	8	32	18	25	271	
	3	26	15	23	8	7	3	0	0	5	14	8	121	
	4	0	0	0	0	0	14	10	10	0	0	0	34	
	5	14	14	13	17	15	15	15	15	15	16	35	43	227
	合計	60	47	54	65	64	55	35	63	72	48	68	89	720
稼働率：%	100	76	90	105	103	92	57	105	116	77	117	144	98	

※定員を超えている月は、空床や入居者の入院による空きベッドを利用しているため。

平成27年度
 鈴鹿聖十字の家 老人居宅介護等事業
 事業報告書

I. 事業内容

老人居宅介護等事業（訪問介護事業・介護予防訪問介護事業）

II. 事業内容全般

要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、利用者個別の生活状況に応じて必要な支援を行うことに努めた。

III. 具体的な事業実施内容

1. 事業収入の向上

（計画内容）

事業運営の安定化のため、月間の平均介護保険収入を、1,300,000円以上とする。

（実施状況）

今年度の介護保険収入は、介護報酬単価切り下げの影響もあって月平均で993,718円となり、目標値を上回る実績をあげることが出来なかった

IV. 資料

1 訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回） （平成27年度）

	30分未満	30分以上	1時間以上	1時間半以上	2時間以上	2時間半以上	4時間以上	合計
身体介護	0	1595	533	0	0	0	0	2128
身体生活	0	51	343	120	0	0	0	514
生活援助	0	127	249	0	0	0	0	376
合計	0	1773	1125	120	0	0	0	3018

2 介護予防訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）

	30分以上	1時間以上	1時間半以上	合計
予防Ⅰ	37	181	0	218
予防Ⅱ	0	162	0	162
予防Ⅲ	0	217	2	219
合計	37	560	2	599

平成27年度
障害者支援施設 菰野聖十字の家
事業報告書

I. 事業内容

障害者支援施設（生活介護事業 定員75名、施設入所支援事業 定員60名）
障害者短期入所事業 : 5床
日中一時支援事業

II. 職員定数

看護職員、セラピストおよび生活支援員の配置数は、利用者に安心して、またその人らしい意欲的な生活の実現を目指すため人員配置体制加算（I）基準数の配置を維持した。

III. 運営の基本方針および事業目標

「利用者と誠実に向かい合い、その人とともに生き、感じ、その方が望む生活を実現していく」という目標のもと、施設を利用されている多様な障害をお持ちの方が、本当に安心して、その人らしい意欲的な生活の実現を目指す為に、接遇面の改善、対人援助技術や障害特性の理解、コミュニケーションスキルの向上、摂食・嚥下障害に関するケアの強化、療養環境の改善を図り、利用者が安心且つ意欲的な生活を送っていただけるよう努めた。具体的な支援、サービス提供内容については下記に記載。

IV. 具体的な事業計画およびその内容

1. 施設入所支援・生活介護事業（入居部門）

- (1) 利用者に喜んで頂けるケアを実施し、利用者満足度アップに取り組む。
 - ・主任、副主任の監督職が各チームの取組んでいる内容や課題の聞き取り調査を実施。解決困難事項を確認し意見交換ができ、良いケアについては評価するとともに全チームに水平展開することで、利用者の満足度アップにつなげる体制をとることができた。一方でご家族様との意見交換の脆弱さなどから、不安の言葉を頂いたこともあり、信頼関係構築に向けた体制づくりが課題となった。
- (2) 利用者の方々が楽しく、健康で過ごしていただくための、より人間的な健康管理医療看護サービスを提供する。
 - ・食事摂取量低下に伴う、体重減少・筋力低下・褥瘡が懸念される利用者に対してどのようにアプローチをしていくのか、サービス管理責任者・看護職員・言語聴覚士・管理栄養士・生活支援員でのカンファレンスを実施。利用者の嗜好や摂食状況・食事形態などを確認し、栄養マネジメント計画書の見直しを行い

- 栄養・健康管理に努めた。
- ・毎月の体重測定や喫食調査を通して健康状態を確認。低栄養状態とされる利用者に対して、管理栄養士・言語聴覚士を中心として食形態や摂食状況の確認と必要に応じて補助食を取り入れ随時の評価を実施した。
 - ・褥瘡予防に関して看護職員と生活支援員が連携し肌疾患が無いか随時報告を行うと共に、必要に応じたエアマットや無圧マットの導入・栄養士のマネジメントによる補助食の提供などで、新たな褥瘡発生を防ぐことができた。
- (3) 利用者の方々が施設で有意義に且つ安心して生活頂けるサービスを提供する。
- ・集団での参加型活動だけでなく、少人数での食事会や創作活動を実施することで個々の想いに寄り添う事が出来た。
 - ・接遇マナーに関する研修などを通して、個々のコミュニケーションスキル向上を目指した。次年度も安心して生活頂ける環境の提供に向け、障害特性の理解と接遇改善を実施する。
- (4) 利用者の方々に、継続して食べる楽しみを感じていただく為に、専門的な摂食・嚥下ケアを提供する。
- ・利用者の食事摂取に対する意欲の維持や現状の課題の把握を行うため、言語聴覚士・理学療法士・管理栄養士・看護職員・生活支援員などの参加による症例検討を実施。各部門が本人の生活の質の維持向上に向けて取り組むべき事や疑問点を出し合う事で、共通認識を持つ事が出来た。
 - ・言語聴覚士を講師とし生活支援員を対象としての内部研修（安全に美味しく食事を食べ続けて頂く為に必要な支援について～誤嚥性肺炎とその予防～）を実施。摂食嚥下のメカニズムと誤嚥性肺炎の特徴等を、食事介助を実施していく上での留意点をおさえながら学ぶことで、今後気をつけていく点等が理解できたなど、意識の高まりを感じる事ができた。
- (4) 食事をよりおいしく、安全に食べていただくために、さまざまな障害の状況にあった食事形態や献立の多様化などの研究を行い、実際の献立に積極的に導入していく。
- ・7月、8月、9月、10月、12月に少人数制での昼食会・夕食会を実施。リハビリルームや居室を会場とし、生活支援員との会話やカラオケを取り入れる事で、普段と異なった雰囲気を感じていただくことが出来た。
 - ・年間行事として6月、9月、11月に昼食会を実施。入居者ミーティングで意向を確認し、管理栄養士と相談しメニューを決定する。てんぷらバイキング・握りずし・おでんを実施し、揚げたてや新鮮なネタが食べられて良かった、いつもと違う雰囲気を楽しめた等の声を頂いた。

(5) 介護事故、食中毒・感染症発生などに対する理解を高め、適切なリスクマネジメントを実施する。

- ・事故、ヒヤリハット報告書の改善策に関して、障害者支援棟リスクマネジメント委員会のメンバーを中心とし、チーム毎や全職員または事案対象者で検討する体制を取る事で、障害者支援施設全体の問題であるという意識を持つ事が出来た。
- ・平成 27 年度の事故の約半数が誤薬（飲みこぼし・飲み忘れ含む）であった。服薬に関するマニュアルや、リスクマネジメントに関する研修などを通して、再度服薬手順の確認と誤薬の危険性を認識し、事故率の減少に努める。
- ・障害者支援棟感染症対策委員会を中心に内部研修を行うと共に、感染予防・特別対応方法などを全職員の目の届く場所に掲示する事で意識の高まりを持つ事が出来た。施設全体でのマスク着用・手指消毒、うがいの徹底・随時換気・私服での通勤を今年度も実施。感染に対する意識は保たれており、インフルエンザの発症は見られなかった。

(6) 障害者スポーツ・創作活動・生産活動を実施する事で、楽しみや生きがいを提供し且つ健康的な日常を過ごしていただく。

- ・小グループでのおやつのお会やナイトバー、誕生日会、車椅子ダンス、映画上映会等を実施した。利用者から「楽しかった、又実施して欲しい」といった声を頂いた。
- ・小グループでの創作活動（折り紙・貼り絵）を実施。作品を掲示することでより一層意欲的に取り組んで頂く事が出来た。
- ・カラオケの要望は強く、希望の楽曲が提供できるようインターネット回線の使用などを検討していく。

障害者支援棟レクリエーション委員会によって企画された日中活動として

* カラオケ大会

* 書道

* 絵手紙

* 折り紙

* 足浴

がある。足浴は音楽などを聴きながら実施し、「気持ち良くゆっくりできた」等の声をいただいた。

- ・作業療法士による創作活動を月曜日と水曜日に実施。帽子などを作成後にご自分で使用される方は、作成時の意欲と完成後の達成感を強く感じる事ができた。

(7) 利用者の直接の声を聞き、社会参加をすすめる事で、日常生活における満足度の向上を図る。

- ・今年度も外出意向が多数聞かれた。年間行事であるショッピングや日帰り旅行

への支援と併せて、外食や買い物・在宅時の馴染みの場所への外出・スポーツ観戦・美術鑑賞など希望に基づき計画を立案し実施した。楽しみを感じていただくと共に社会交流の機会を持って頂けるよう努めた。

【平成 27 年度の外出実績】（年間行事は除く）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数	4	4	4	5	1	9	7	8	1	0	1	4	48回
延べ利用者数	4	4	4	6	1	10	7	9	1	0	1	4	51名

- ・その他、弁当を購入しての園庭でのピクニックや、同室者や食の嗜好の合う方同士で外注した食事を一緒に食べ交流を図っていただいた。

【平成 27 年度の外出先例】

分類	外出先 例
外食	ケーキショップ・回転寿司・うなぎ屋・ファミリーレストランなど
買い物	イオンモール東員・イオン菰野・イオン鈴鹿・ピアゴ菰野 ピアゴ菰野・イオン尾平・しまむら菰野店など
観光	さんぱち市
スポーツ観戦	ナゴヤドーム（プロ野球観戦）
趣味・娯楽	パラミタミュージアム・県立博物館・カラオケ喫茶
その他	鈴鹿ハンターでの陶芸展・愛知県立名古屋特別支援学校（母校訪問）・友人面会・けやきフェスタ

- (8) 利用者の身体機能の維持・向上ができ活動的に過ごしていただけるよう努める。
- ・理学療法…リハビリテーションが必要とされる利用者に対しリハビリテーション計画を他職種とも協力しながら作成。身体機能の維持向上にむけて関節可動域訓練や歩行訓練等を実施した。
 - ・作業療法…身体機能の維持向上を目指し個別の機能訓練を実施。月・水曜日には集団および個別での創作活動を実施。希望者も多数おり意欲的に取り組む姿勢が見られた。
 - ・言語聴覚療法…食事を安全に美味しく食べていただく為に嚥下機能の評価や摂取時の姿勢やポジショニング・食事環境の評価を実施。管理栄養士・看護職員・生活支援員と連携し食形態や栄養状態の確認、見直し評価を実施した。必要に応じてカンファレンスを実施し、利用者の生活の質の向上に努めた。
- (9) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者・家族等との良好な関係を築きあげる為の教育訓練を実施する。

【平成 27 年度 介護看護入居部門 施設内専門研修】

実施月	対象職員	内容
4月	全職員	腰痛予防の為の基礎知識（身体の作りの理解と安全な介助技術）
6月	新人職員	適切な個別支援計画の作成方法
7月	生活支援員	安全に美味しく食事を食べ続けて頂く為に必要な支援について
9月	生活支援員	感染症に対する知識の向上と施設で出来る拡大防止法
11月	生活支援員	高次脳機能障害の特性理解とコミュニケーションについて
1月	全職員	ハラスメントをなくすために職員が認識すべき事項について
3月	全職員	障害者虐待防止法について

- ・各研修ともに積極的な参加姿勢がみられ専門的な知識と技術の向上に努めた。
- ・障害者虐待防止法に関する研修を実施。法の理解と虐待が起こりうる環境の理解に努めた。来年度も研修などを実施し利用者や家族が安心して生活でき、支援者が喜々として支援できる環境づくりを目指す。

(10) 職員の意欲が維持向上される環境作りに努める。

- ・来年度も職員の意欲が維持されるよう、管理監督職員はより一層の積極的な関わりと、評価されるべき取り組みに関しては声に出して評価をする事でモチベーションアップを図っていく。

(11) 施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設利用率の確保。

- ・日々の感染予防と看護職員、管理栄養士、生活支援員で協力し適切な健康管理を行う事で入院者の減少に努めベッド稼働率は 97.0%であった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	95.7	96.2	97.6	95.0	95.8	97.8	99.2	98.6	98.5	97.4	96.1	95.9	97.0

2. 短期入所事業（入居部門）

I. 事業内容

障害者短期入所事業 定員 5 名

II. 施設方針および事業目標

利用者が自らの意志で、その方が望む、その方らしい在宅での生活を可能な限り維持していく為に、医療・介護・リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用して頂く事により、心身機能の向上と、安心出来る地域

での生活を目指し、具体的な支援、サービスの提供を明確なプランを立て、ご家族や地域の様々な社会資源と連携し、より豊かな在宅での生活を実現していくよう努めた。

- (1) 利用者に安心・満足していただけるケアの提供
 - ・短期入所事業においても個別支援計画を作成し、これに基づくケア内容を各チームが責任をもって実施する事で利用者に安心して利用いただけるよう努めた。
 - ・利用者やご家族様からの施設サービスに対するご意見や想いを可能な限り確認する為、チャンスカードや苦情通知書を活用した。
- (2) 在宅での生活状況に合わせたサービスの提供
 - ・サービス管理責任者は可能な限り自宅訪問や面談をさせていただき、自宅での生活状況を確認することと併せて利用中の生活状況をお伝えする事で、ご家庭に近い居住環境と生活状況に合わせた個別サービスが提供出来るように努めた。
 - ・相談支援事業所を利用されている方については、相談支援専門員に随時短期入所利用状況を報告すると共に、サービス担当者会議にも積極的に参加した。
- (3) 職員のショートステイや通所（生活介護）等の在宅事業に関する理解の向上
 - ・利用者やご家族の利用時における意向や自宅での生活状況などの周知を図り、在宅事業の役割と重要性の理解を持つ事が出来た。
- (4) ご家族や他事業所との連携、連絡・相談体制の充実
 - ・ご家族だけでなく、他事業所や行政・相談支援事業所との連携、情報共有を密にとり利用者がより良い在宅生活を営めるよう努めた。
- (5) 通所との情報共有と連携、サービス内容の統一化
 - ・通所とショートステイ併用利用者について、実施しているサービス内容や連絡事項などの情報を共有し、必要に応じて相互での協議を行い可能な限り統一したサービスの提供をする事で、安心して利用いただけるように努めた。
- (6) 日中活動（文化・娯楽・創作・生産活動等）の充実
 - ・ご意向に応じた日中活動が提供出来るように利用者、ご家族からの意向を確認。これらを反映させた個別支援計画を作成し、文化・娯楽・生産活動の実施に努めた。
- (7) 満足いただけるサービスの提供を目指して
 - ・利用者により良いサービスを提供する為、より安定した経営・運営を図る必要性があることから、年間平均稼働率98%以上を目標値としていた。今年度は

目標値を上回る年間平均稼働率とする事が出来た。

(8) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者・家族などとの良好な関係を築き上げるための教育訓練を実施する。

- ・ 接遇マナーや虐待防止法に関する研修を実施。来年度も継続して実施し、利用者が安心して生活出来る環境整備と、利用者や家族から信頼され頼りとされる職員の育成に努める。

3. 生活介護・日中一時支援（通所部門）

1. 事業概要

(1) 営業日および利用時間

月曜日～日曜日：午前9時～午後5時

(2) 利用定員 15名

(3) 利用対象者

現在お住まいの市町村で、自立支援法に基づく支給決定を受けた方を対象。

2. 運営の基本方針および事業目標

利用者の日常生活および社会生活がより快適で安心できるものとなるように最大限の支援に努めることを基本方針とし、利用者一人ひとりの生活暦や価値観・その想いをありのままに受け入れ、その方らしい生活を送っていただくために必要な援助の方法を共に考え共に取り組みながら、利用者の幸福感や満足度の向上および自立支援へと繋げていくことを事業目標とした。

内容的には、アットホームな雰囲気での食事の提供や心地よい入浴・排泄サービスの提供をはじめ、意欲的な創作活動および生産活動の提供、楽しみながら運動・活動・機能訓練できるレクリエーションの実施、様々な行事や外出計画を立案・実行することで、地域との交流や社会参加の機会を設けながら、より楽しく充実した在宅生活を送ることができるよう支援に努めた。

職員には個々に持っている能力を十分に発揮することができるようにサポートするとともに、日頃からのコミュニケーションや意見交換を通じて、ケアの質の向上および働きやすい職場の環境づくりに努めた。また、外部研修への参加や当施設マニュアル等を資料とした内部研修を実施することで、施設の役割・責任についての理解を深め、個々のスキルアップや全体のレベルアップを図れるように努めた。

3. 具体的な事業計画およびその内容

<生活介護事業>

(1) 利用者一人ひとりの安心・満足度を高めていくために、信頼関係の構築・強化およびサービスの質の向上を図る。

- ・ 利用者一人ひとりのニーズに沿った個別支援計画書を作成していけるように、

ご本人およびご家族への希望確認の聞き取りを丁寧を実施するとともに、モニタリングの記入や評価に留意し、次回更新時に具体的課題や支援内容に適切に反映できるように努めた。

- ・利用者一人ひとりの障害特性および個別性に応じたサービス提供を実施するとともに、それぞれが持つコミュニケーション能力を活用しながら、利用者・ご家族との関係性の構築に努めた。
- ・送迎および入浴サービス等の希望の実現に努めていくとともに、相談支援事業所によるサービス等利用計画が立案されている利用者に関して、担当者会議に出席することで、ご家族や他事業所等との連携を密とし、その方の生活の質の向上に努めた。
- ・医療ケアが必要な利用者に対して、ご本人の状態や緊急時の対応方法を密に確認し、ご家族との連携を図っていくことで、利用者が安心してご利用いただくことのできる体制を継続できた。
- ・記録管理システムを使用することで、利用者の心身状態の把握およびご家族への情報提供に活用した。
- ・ご家族が利用時の様子をより把握しやすいように、行事やクラブ活動時の状況の伝達方法を工夫した。ご本人に活動への参加や写真撮影の同意等の意向確認が取りにくい方に関しては、事前にご家族への確認を行うように努めた。
- ・毎月実施しているミーティングにて、各利用者についての状況・支援内容の確認を他職種交えて密に行い、情報の共有およびサービスの向上に努めた。
- ・苦情にまでは至らなかったが改善の余地が見られた事柄について、報告書(チャンスカード)を4件挙げ、周知・注意喚起を図った。利用者サービスの向上および業務改善に繋がるように努めた。
- ・当施設の短期入所を併用利用されている利用者に対して、入居部門との情報共有および協力体制を強化することで、ご家族との信頼関係の構築およびサービスの向上に繋げていけるように努めた。

(2) 利用者の安心・安全に対するリスクマネジメント管理を強化する。

- ・利用者に安心・安全に利用していただくために、「発生した事故や苦情に対して、どのように対応していくのか」だけでなく、「日々の生活支援のなかで、どのような気づきや危険予測を行なうことができるのか」といった視点のもと、積極的にヒヤリハット報告書の作成・周知に努めることで、利用者の安心や安全配慮に努めた。
- ・毎月の法人リスクマネジメント委員会で検討・協議された内容のなかで特に注意が必要なものに関して全職員で確認し、同様の事故が再発しないように周知・注意喚起に努めた。また、全国で発生した事故等に関する情報収集に努めた。
- ・自立歩行されている方の転倒リスクに対して、職員全体で見守り・付き添い強化を図り、利用者への安全配慮に努めた。

- ・高年齢化されている利用者に対しては、普段の見守り対応や食事時の状態確認および移乗介助における留意点等を再確認することで、安全な介助方法の実践に努めた。
- ・毎朝のバイタル測定値に留意するとともに、いつもと異なる数値や状態等が見られた際は、看護師・ご家族への報告および様子観察に努めた。
- ・感染対策委員会からの通達を参照しながら、インフルエンザや胃腸風邪等の感染症の発症、拡大防止に努めた。
- ・利用者に対し不利益な環境をつくらないように「虐待防止」や「不適切ケア」についての内部研修を実施して注意喚起に努めた。また、良い支援を増やしていくことで、好循環をつくっていけるように好事例（グッドネス報告）の共有に努めた。
- ・当施設の短期入所を併用利用されている利用者に対して、事故や苦情等に関する情報の共有を強化することで、同様の事柄が発生しないように努めた。
- ・平成27年度に発生した事故件数は3件（介護事故0件、車両事故3件）、苦情は1件。どちらも目標数値内に留めることができたが、車両事故の発生に伴い、送迎マニュアルを作成、事故発生時のフローチャートを更新し、安全で安心して利用できる運転・添乗業務に努めた。また、安全運転講習を行い、職員個々からも危険とを感じる場所やルート等についての検討・協議を行った。

（3）日中活動の拡充を図る。

- ・現在利用者より好評を受けて取り組んでいる文化的活動、創作活動、レクリエーション等は継続しながら、随時新しい活動内容のご希望等が見られないかの確認に努めた。
- ・利用者の希望に応じて、新しいレクリエーションの種類を増やした。
- ・年間行事について、ミーティング時に良かった点・改善点等の評価を行い、次に活かしていけるように努めた。また、事前確認や事前準備を職員間で協力し合うことで、より充実した行事を開催することができた。
- ・希望の利用者全員で取り組んでいける作品づくりとして、大きなタイルモザイクアートの創作活動に取り組んだ。（完成するまで、来年度も引き続き実施する）
- ・生産活動的な取り組みとして、通所事業所においても月2回陶芸クラブを実施し、各々の能力を発揮しながら楽しみをもって作品作りに取り組んでいけるように努めた。希望が聞かれた利用者・ご家族においては、展示即売を行い、よりご好評いただくことができた。
- ・2ヶ月に一度希望者を対象に、アロマセラピーの実施に取り組んだ。良い癒しの時間の提供に繋がり、利用者やご家族に喜んでいただくことができた。
- ・月間カレンダーを作成し、来月のレクリエーションの予定表や先月の行事のご様子等を写真付きで掲載し配布した。利用者・ご家族・地域の相談支援事業所からもわかりやすいとご好評いただくことができた。

- ・理学療法士の増員に伴い、提供できるリハビリテーションの量や質の向上を図ることができた。

(4) 職員の知識・技術の向上を図る。

- ・職員個々のスキルアップや事業所全体のレベルアップを目的とした教育訓練を年5回実施した。また、個々に抱えている困難ケースや日々の業務において感じている課題や改善点等について、職員全体で検討する取り組み（ケアカンファレンス）を年6回実施した。また、翌月ミーティングにて1ヵ月評価を行い、その後の状況確認に努めた。
- ・職員個々に目標を設定し、1年を通じてその実践に努めた。また、半年ごとにその経過状況をレポート提出することで、目標の達成度を部門長と確認し、職員のスキルアップや意欲向上に繋げていけるように努めた。
- ・外部研修については、職種に応じて積極的に参加し、それぞれが勉強になった内容について、ミーティング時に発表、他職員への伝達に努めた。

【平成27年度 参加した外部研修】

5月	障がい福祉サービス事業所等基礎研修（2名） 京滋奈三重サブブロックQOL委員会（1名） 奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会（1名）
7月	京滋奈三重サブブロックQOL委員会（1名）
8月	奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会（1名）
9月	「安全な気管吸引の実践」セミナー（1名） 「きららの教育」一日体験研修（1名）
10月	「自閉症のある子どもを育てる家族からの提言」講座（1名） 三重県障害者虐待防止・権利擁護研修（1名）
11月	近畿地区身体障害者施設協議会研究大会（1名）
12月	「きららの教育」一日体験研修（1名）
1月	京滋奈三重サブブロックQOL委員会（1名） 奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会（1名） 知的障がい者福祉専門研修会（1名）
2月	三重県強度行動障害支援者養成研修（1名）
3月	京滋奈三重サブブロックQOL委員会（1名） 奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会（1名）

【平成27年度 実施した内部研修】

4月	職員個人目標の達成に向けて（レポート提出）
5月	利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて（ケアカンファレンス）
6月	「障害者虐待防止法」及び「障害者差別解消法」の理解について
7月	利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて（ケアカンファレンス）
8月	「からだの仕組みを知りみんなで食事を楽しもう」
9月	利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて（ケアカンファレンス）
10月	職員個人目標の達成に向けて-経過報告-（レポート提出） 「仕事をする上で大切なこと」介護福祉職員に求められるスキルとマナー
11月	利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて（ケアカンファレンス）
12月	「安全で安心できる送迎サービスの実施にあたって」
1月	利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて（ケアカンファレンス）
2月	利用者のためのリスクマネジメントについて
3月	利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて（ケアカンファレンス） 職員個人目標の達成に向けて-評価・反省-（レポート提出）

<日中一時支援事業>

(1) 児童に対するサービス内容の充実を図る。

- ・ 障害児に提供していくサービス内容について、どのように関わりを持って支援していくことが適切であるのかを職員全体で検討し、また、安全で快適な場所の提供に繋げていけるように努めた。
- ・ 学校でのご様子等の情報収集を行なっていくため、特別支援学校の先生との連携を図りながら、「きららの教育一日体験」に職員2名が参加した。学校での取り組みおよび支援内容等を学習し、ミーティング時にその内容を発表し、職員全体での情報共有を図った。
- ・ 障害特性の把握に繋がる研修を行うことで、身体障害のみならず、知的障害および自閉症の方に対する理解を深め、日々の生活支援に活かしていけるように努めた。
- ・ 菰野町、四日市市以外に鈴鹿市との再契約を結び新規利用者の確保に努めた。

4. 年間行事

【平成27年度 行事内容】

月	主な行事	月	主な行事
4月	花見	10月	運動会 外出支援 ハロウィンパーティー
5月	家族交流会 外出支援	11月	外出支援
6月	外出支援	12月	クリスマス会
7月	七夕カフェ	1月	餅つき 新年会・お茶会
8月	納涼会	2月	豆まき バレンタイン企画
9月	家族交流会 外出支援	3月	雛祭り

※映画鑑賞会は、その時の流行や希望等を考慮し、毎月1回実施した。

【平成27年度 外出支援の一例】

買い物	イオンタウン菰野、イオンモール東員 イオンモール鈴鹿、イオンモール桑名
観光	名古屋港水族館、名古屋市科学館 リニア鉄道館、なばなの里、けやき広場

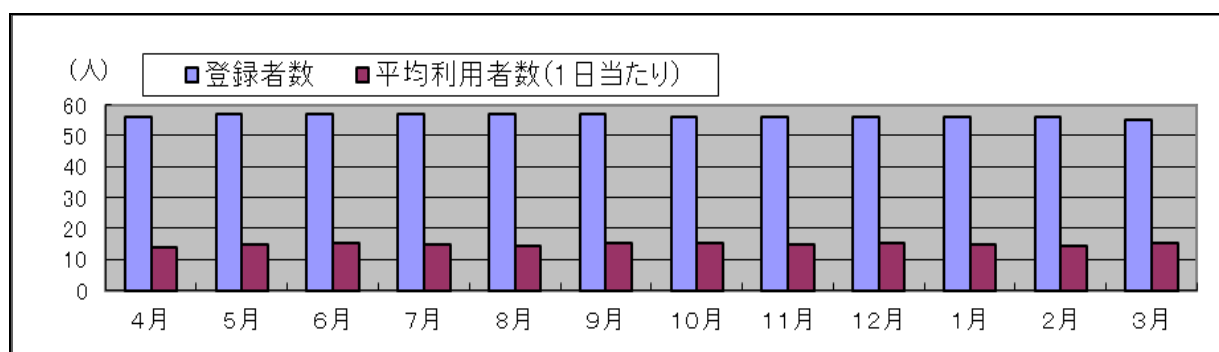
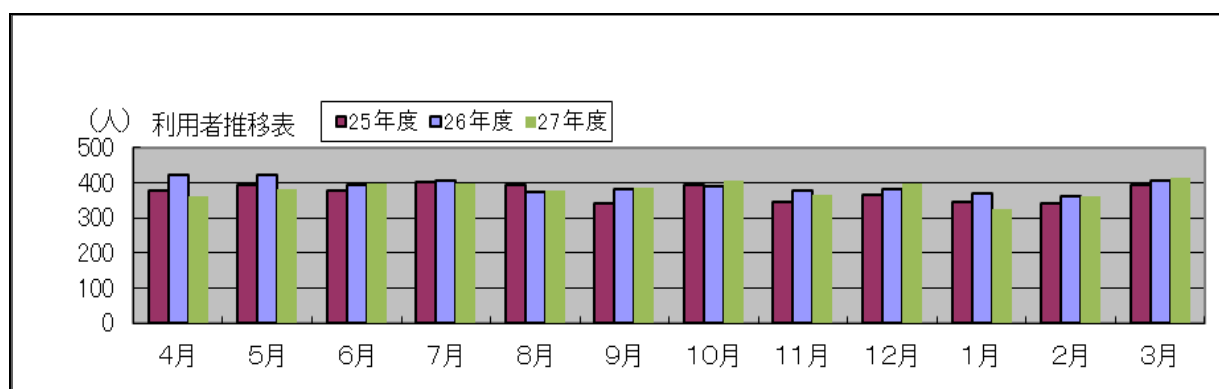
※外出支援の外出先については、利用者からの要望を取り入れながら、定期的に計画を立て、社会参加や地域交流の機会を提供していけるように努めた。

5. 月別利用者数 ＜生活介護事業＞

生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
登録者数	56	57	57	57	57	57	56	56	56	56	56	55		56.33
平均 (1日)	13.8	14.6	15.3	14.7	14.5	15.4	15.1	14.7	15.2	14.8	14.5	15.3		14.8
稼働率	92.3	97.7	102.3	98.0	96.29	102.9	100.5	97.9	101.5	98.8	96.8	102.0		98.9
27年度 利用者数	360	381	399	397	378	386	407	367	396	326	363	413	4573	381.1
26年度 利用者数	420	423	394	407	375	383	390	378	383	368	363	405	4,689	390.8
25年度 利用者数	377	393	378	400	394	341	395	346	367	347	340	395	4,473	372.8

(単位：人)



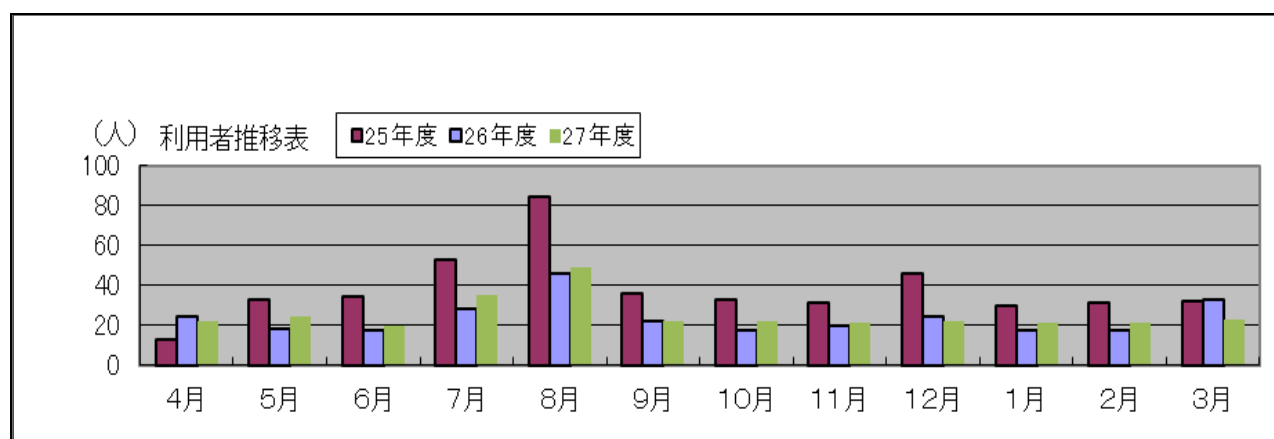
※平成27年度の生活介護事業における年間平均稼働率は、98.9%（実際の開所日数での計算方法による）にて、目標の100%を下回った。

<日中一時支援事業>

(単位：人)

日中一時支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
27年度 利用者数	22	24	20	35	49	22	22	21	22	21	21	23	302	25.1
26年度 利用者数	24	18	17	28	46	22	17	20	24	17	17	33	283	23.6
25年度 利用者数	13	33	34	53	84	36	33	31	46	30	31	32	456	38.0



※放課後デイサービスの新規事業参入に伴い、26年度の利用者数合計は大幅減であったが、27年度は新規利用者の確保に努め、利用者数合計は302人にて、前年度を上回ることができた。

4. 特定相談支援事業・障害児相談支援事業

I. 事業内容

特定相談支援事業・障害児相談支援事業

II. 運営の基本方針および事業目標

地域で暮らす障害のある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように相談支援事業を実施し、サービス等利用計画についての相談及び作成などの支援、ケアマネジメントによりきめ細かく支援することに努めた。

III. 具体的な事業計画およびその内容

- (1) 利用者に安心・満足していただける相談対応とサービス等利用計画を作成する。
- ・菰野聖十字の家の入居者で、相談支援事業所によるサービス等利用計画が未作成だった利用者48名全員とご契約を交わし、利用者・御家族様に丁寧寄り添うことで安心して利用していただけるように努めた。

・適切なサービス等利用計画となるように、これまで施設側が把握していないような生活暦やご本人・ご家族の意向等を確認するとともに、生活状況等の確認に努めた。

(2) 相談支援事業に求められる役割を十分に理解して運営・実務を行い、利用者の確保と信頼関係の構築を図る。

事業所開設時には菰野町社会福祉協議会での実習を行い、相談支援事業の理解を深めたとともに、四日市圏域の相談支援事業所連絡会等へも管理者・相談支援専門員とともに毎回参加し、積極的に交流を図ることで、必要な助言・指導・協力をいただきながら運営した。

平成27年度
特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家
事業報告書

I. 事業内容

1. 介護老人福祉施設事業（定員90名）
2. 居宅介護支援事業

II. 運営の基本方針および事業目標

社会福祉法の改正を見据えながら、当施設も行政や地域の事業所と連携を深め、地域になくてはならない施設として貢献できるような運営に努めた。

認知症があり混乱や不安になられている方に対しては、その思いに共感し、寄り添い、丁寧な対応を心がけることで、少しでも安心していただけるように支援し、終末期にある方には入居者様の立場でご家族様と真摯に対話を持ちながら、本当にその方が望む最期を迎えていただくよう丁寧な看取りを実践した。

また介護職員不足により、時には入居者をお待たせしたり、ご迷惑をおかけすることもあったが、入居者様・ご家族様にいかに安心していただけるかに焦点をあてた介護技術の向上や接遇とコミュニケーションを念頭に置き、OJT や研修に取り組んだ。また施設における内部研修においては毎月実施でき、レポートを提出することで効果的な学びとすることができた。外部研修にも可能な限り参加し、職員のモチベーションとスキルのアップを目指し、入居者様の満足度アップに貢献できる職員を育成するよう努めた。

III. 具体的な事業報告

1. 【施設サービス計画の立案・実行・記録】

他職種連携のもと3カ月に1度、施設サービス計画書を作成し、実行、モニタリングをしてきた。提供したサービスを記録することでどのようなサービスが適切かを定期的に検討することができた。

- (1) 他職種連携のもと入居者様やご家族様としっかりコミュニケーションをとることができ、またそれに基づいた施設サービス計画書を作成し、実行することに努めた。
- (2) 作成された施設サービス計画書は入居者様本人、またはご家族様に丁寧に説明を行い同意をいただくことができた。
- (3) 実施されたサービスは記録システムに記録をし、定期に見直しと検討を重ねることができ、より良いサービスにつなげることができた。

2. 【質の高いケアの提供】

利用者満足向上のため、各委員会を定期的で開催し情報の共有や新たな取り

決めなどを行ってきた。また入居者様の方の心身機能の維持・向上のため、生活動作訓練を日常的に取り入れ、身体機能の低下を予防する事に努めることができた。

- (1) 認知症、入浴委員会は隔月、排泄委員会でのミーティングは毎月開催し、知識や情報を共有、及びサービスの見直しを行うことで、ケアの質に反映するよう努めた。
- (2) 入居者様の身体機能についてはトイレ介助や入浴場面など残存機能を活かした介助を行う事で、生活動作の維持向上に努めることができた。また定時の体位交換や離床を行うことで、褥瘡を未然に防ぐ事に努めた。
- (3) 言葉遣いを丁寧に行い、入居者様の方の要望に耳を傾けるよう努力した。また多職種連携で入居者様の体調の変化にも気を配ることができた。

3. 【食事満足】

食に関しては食事満足度向上委員会において毎月ミーティングを実施し、美味しく安全な食事の提供を行うよう努めた。また食事に関する事で意見を協議し改善につなげることができた。

- (1) 栄養モニタリングを定期的実施することで、入居者様の栄養状態の維持・向上を目指しながら検討し、安全で美味しい食事の提供を実施する事ができた。

4. 【認知症ケア】

認知症ケアについて、2か月に1度、認知症委員のメンバーがミーティングを実施。内部研修でも認知症の特性について学び、専門性の高いケアに反映する事に努めた。

- (1) 認知症ケアについて、認知症担当職員が隔月で委員会を開催し認知症の特性や対応時の言葉遣い、感情のコントロールの重要性を学ぶことで専門性の高いケアを提供することができた。そして議事録を回覧することで内容を全職員で共有した。
- (2) 1月の内部研修にて認知症及び認知症ケアに関する知識を深め専門性の向上を図った。
- (3) 丁寧な言葉遣いを心がけることで認知症の方の不安や混乱を取り除き、安心したケアを提供する事につとめた。

5. 【看取りケア】

今年度も多くの方の看取りを行った。終末期にある入居者様のご家族に対しては定期的に（週一回）状態の報告を丁寧に行い、また面会時にはより良い環境の中で一緒に過ごすことができるよう配慮することに努めた。すべての方に満足のいく看取りケアができたかについては検証できていないが、多くの退居者家族の方から感謝の言葉をいただくことができた。

- (1) ターミナルケアを開始する際は、医師、看護師、ケアワーカー（主に主任、副主任）から状態の説明を丁寧に行い、入居者様のご家族が抱かれています懸念を真摯に受けとめ、今後の対応について話し合うことでご家族の不安を軽減することができたのではないかと感じている。
- (2) 終末期ケア計画書は入居者様やご家族様の意向を伺い、ケアワーカー、看護師、管理栄養士、機能訓練指導員、生活相談員、介護支援専門員など他職種連携のもとでサービス担当者会議を実施し計画書に反映させた。

6. 【リスクマネジメント】

入居者様の方の生命の安全を考慮し、また安心して生活できるよう事故防止・感染症の防止・食中毒の防止に努めた。今年度の事故発生件数は56件（本館38件、新館18件）であった。今年度は十分な看護職員の配置ができていないことも理由ではあったが、薬のセットミスなど誤薬事故が目立った。薬については二重、三重のチェックと服薬前の声出し確認を徹底することで次年度は誤薬事故を無くすことを目指す。

また感染症・食中毒に関しては0件と全国でインフルエンザが猛威を振るっていた中1人も感染者が出なかったことは、感染症予防について繰り返し周知することで職員の感染症に対する意識を高く保つことができ、感染症対策が徹底された成果であると考えられる。

- (1) 毎月開催しているリスクマネジメント委員会では、事故やその後の対応などについて他部署間で意見交換を行い、再発防止策に関して意義のある話し合いができた。委員会で話し合われた内容は議事録にて全職員に周知し、他部署の事例も今後自分の部署でも発生する可能性のあるものとして共通理解することができた。
- (2) 感染症の予防として11月より出勤時のマスクの着用と手指消毒を徹底した。食事前には入居者様にも手指消毒の協力をいただき食中毒の予防に努めた。またテーブル・ドアノブ・手すりなどの消毒、居室の加湿を徹底的に行った。
- (3) 感染症の罹患者は出なかったが、疑いのある方が出た際に感染症マニュアルに沿って迅速に職員が対応することができており感染症に対する意識はとても高かった。

7. 【環境整備】

入居者様が快適に生活できるよう、また面会の方も心地よく過ごせるように新館では居室や廊下、コミュニティホールはもちろん洗面台や棚・テレビの上など施設内の細かい所の清掃にも力を入れてきた。また居室内や寮母室の整理整頓にも努め、脱いだ靴を揃えたり離床後の敷布団のシワを伸ばしたり、掛け布団をきれいに畳むなど見た目も意識するよう周知してきたことで定着してきた。本館については介護職員の配置がなかなかできていなかったこともあり、隅々までは実施できておらず

次年度の課題とする。また本館・新館とも臭いについてはこまめな掃除や換気、消臭剤を使用することで入居者様や面会者に不快な思いをさせないよう努めた。居室の設えも写真を飾ったり家具の配置を変えたり、入居者個人に合わせて行った。

8. 【モチベーション向上】

職員一人一人がモチベーションを保てるように誰でも意見が言えるような風通しの良い職場づくりに努めた。

- (1) 職員には毎月レポートを提出していただき、その中で施設や入居者様に対する意見を挙げてもらい、リーダーミーティングで協議した。どのような内容のものでも必ず回答することで、意見の出しやすい環境作りに努めた。
- (2) 職員全員に複数の担当を割り振り、主任・副主任・リーダーがフォローしながら与えられた業務を全うすることで責任感を養うことができた。
- (3) 主任・副主任・リーダーは部下に対し必要に応じて個別に対話する時間を作り、悩みを聞いたりモチベーションアップにつながるような助言をするようにできる限り努めた。

9. 【教育訓練】

入居者様に最も有利なサービスを提供するため、職員のケアの質の向上を目指し教育訓練を実施した。研修内容は基本的な知識や姿勢を確認するものを中心とし、最も大切な基本を繰り返し確認することで職員の質の向上につなげた。

- (1) 内部研修として、職員の専門知識や技術を向上させるテーマを吟味し年間計画を立て、主任や生活相談員、そして各担当者が資料を作成し講師となり毎月確実に教育訓練を実施した。職員には学んだことを頭の中で整理、定着させるため毎回レポートを提出させた。
- (2) 外部研修としても介護職員のスキルアップにつながる研修を吟味し、年間10回以上参加することができた。(詳細は下記の「VI. 職員研修の実施状況 1. 内部研修、2. 外部研修」を参照)

10. 【余暇活動の充実】

各種クラブ活動や外部のボランティアを活用して入居者様の方の文化・教養活動の充実に努めた。また様々な行事を企画し多くの方に楽しんでもらうことができた。

- (1) 職員が実施しているものとして朗読クラブ、書道クラブ、映画放映をほぼ毎月実施できた。
- (2) 外部ボランティアとして歌のボランティア、民話のボランティア、あずま太鼓、津軽三味線、などを年間10回以上実施していただくことができた。
- (3) こども園との交流会は特に喜ばれる方が多く、27年度は5月「シャボン玉遊び」、7月「納涼会」、10月「ハロウィーンパーティー」、12月「クリスマス会」を実施し多くの入居者様が参加された。

- (4) 個別では陶芸クラブ・生花クラブへの参加や傾聴ボランティアの訪問も取り入れた。
- (5) その他お楽しみ食事会など様々な行事を実施した。(詳細は下記の「V. 年間行事」を参照)

1 1. 【稼働率の確保】

施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設稼働率の確保に努めた。

- (1) 感染症におけるショートステイの一時停止や入院等により稼働率が下がらないよう、職員一丸となって感染症防止に努めた。(平成 27 年度のインフルエンザ、ノロウィルスの罹患利用者ゼロ)
- (2) 8 月に 5 名、12 月に 8 名、1 月に 4 名と死亡退去が集中したが、事前(死亡退去前)に本入居者の段取りを行う事によってスムーズに入居のご案内ができた。
- (3) 行政、関係機関とも連携をとり、空きベッドが生じない管理に努めた。最終的にベッド稼働率 99.4% (入居・短期入所合計) を確保することができた。

IV. 地域との交流

地域交流事業として以下のような行事を企画、実行した。

- 1. 入居者・家族交流会 (5 月・9 月: ご家族との交流)
- 2. 盆踊り大会 (7 月: 地域住民・子供会・婦人会との交流)
- 3. 交流運動会 (10 月: こども園児・地域住民・老人クラブとの交流)
- 4. 認定こども園との交流会 (5、7、10、12 月: 聖マリア認定こども園児との交流)
- 5. その他協力校等との連携により以下のボランティア体験、実習等を実施した。
 - (1) 三重県社協 職場体験事業 (職場体験)
 - (2) メリノール女学院高等学校 (ボランティア体験)
 - (3) 鈴鹿医療科学大学 (相談援助実習)
 - (4) 聖十字看護専門学校 (老年看護学実習)

V. 年間行事

4 月	桜のお花見
5 月	家族交流会、こども園との交流会・藤のお花見
6 月	お楽しみ食事会・防災訓練
7 月	七夕・盆踊り・かき氷 (毎週火曜)・こども園との交流会
8 月	お楽しみ食事会・かき氷 (毎週火曜)
9 月	敬老の日家族交流会・かき氷 (毎週火曜)
10 月	運動会・コスモス見学・こども園との交流会・メリノールボランティア

11月	お楽しみ食事会（焼き芋）・防災訓練
12月	クリスマスイヴ礼拝・クリスマス会・こども園との交流会
1月	入居者新年会・餅つき（こども園のみ開催）
2月	節分（豆まき）・初釜
3月	防災訓練・お楽しみ食事会

その他、施設内・外の行事を多数実施した。

VI. 職員研修の実施状況

1. 内部研修

(1) 専門職研修

対象者：介護・看護職員

講師：施設長・主任・生活相談員・栄養士・リスクマネジメント委員・排泄ケア委員等

- 4月 法人新人職員研修
高齢者虐待防止について
- 5月 介護職員が実施する吸痰について
- 6月 身体的拘束等の排除のための取組みに関して
- 7月 医療に関する知識・褥瘡予防のケアについて
- 8月 高齢者の権利擁護について
- 9月 利用者等のプライバシーの保護の取組みについて
- 10月 24時間連絡体制について
- 11月 「感染症の発生及び食中毒」の予防及びまん延の防止に関して
- 12月 事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について
- 1月 認知症に関する知識及び認知症ケアに関して
- 2月 看取りについて
- 3月 ハラスメントについて

2. 外部研修

外部研修としても介護職員の生涯学習やスキルアップ等の内容を吟味し、年間10回（本館・新館合計）以上参加することができた。

(1) 三重県社会福祉協議会主催：社会福祉施設職員研修

- ① 新任職員研修Ⅰ・Ⅱ（実施月6、7月）
- ② 中堅職員研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（実施月7、8、9月）
- ③ 指導的職員研修Ⅰ・Ⅱ（実施月9月）

(2) その他

- ①社会福祉士実習施設・機関との連絡会 (実施月 6月)
- ②相談援助実習に係わる実習報告会 (実施月 12月)
- ③地域権利擁護支援研修 (実施月 1月)

Ⅶ. 資料

(1) 月別入居者数 (平成27年度)

①特別養護老人ホーム

区分	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	月初人数	87	89	89	89	89	88	89	90	89	84	88	87	—
	入居	5	3	2	2	4	4	4	2	3	8	2	4	43
退所	死亡	3	3	2	2	5	3	3	3	8	4	3	3	42
	入院	0	1	1	3	3	1	3	1	0	0	0	0	13
	家庭復帰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

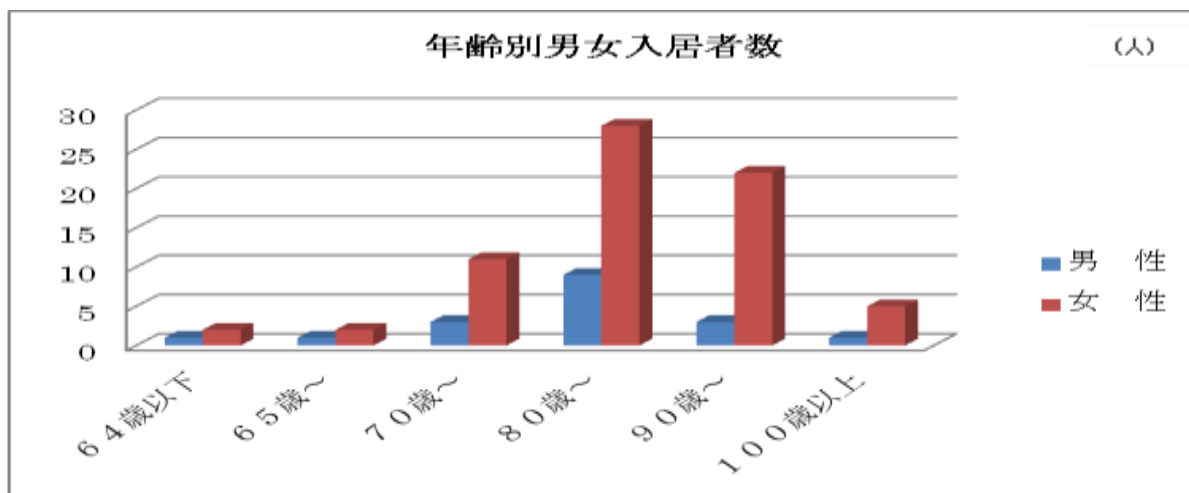
※死亡退居は42名で月平均3.5名となっている。また次ページ資料(3)でもわかるとおり、入居いただく方の70%以上は介護度4~5である。

また退居された後はスムーズに入居いただいております、大きな稼働率の低下にはつながっていない。

(2) 年齢別男女入居者数

平成28年3月31日現在

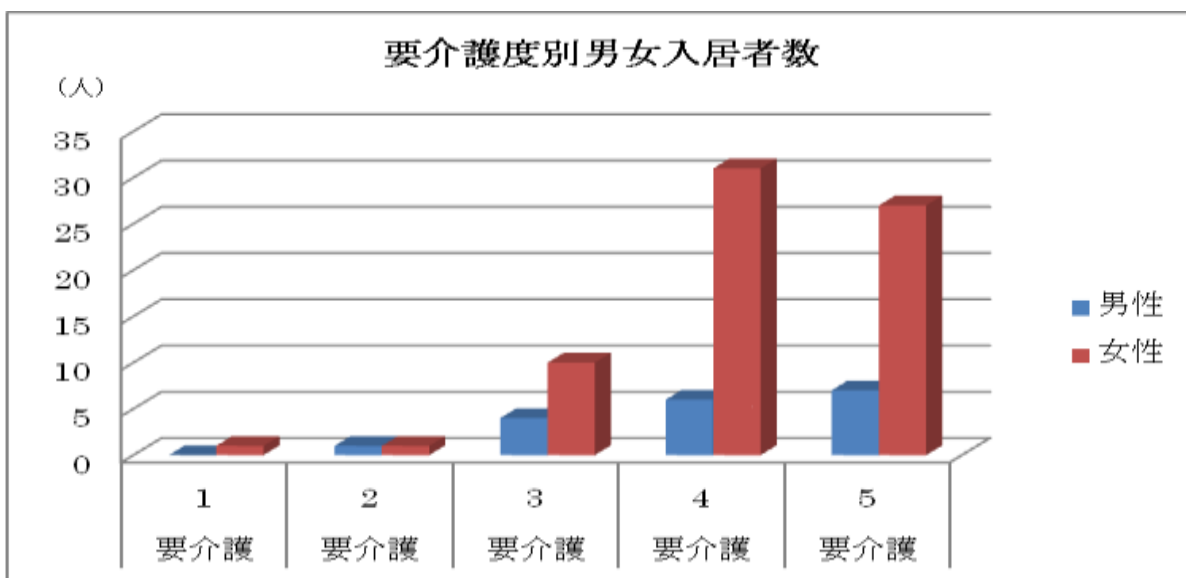
	64歳以下	65歳~69歳	70歳~79歳	80歳~89歳	90歳~99歳	100歳以上	合計
男性	1	1	3	9	3	1	18
女性	2	2	11	28	22	5	70
合計	3	3	14	37	25	6	88



(3) 要介護度別男女入居者数

平成 28 年 3 月 31 日現在

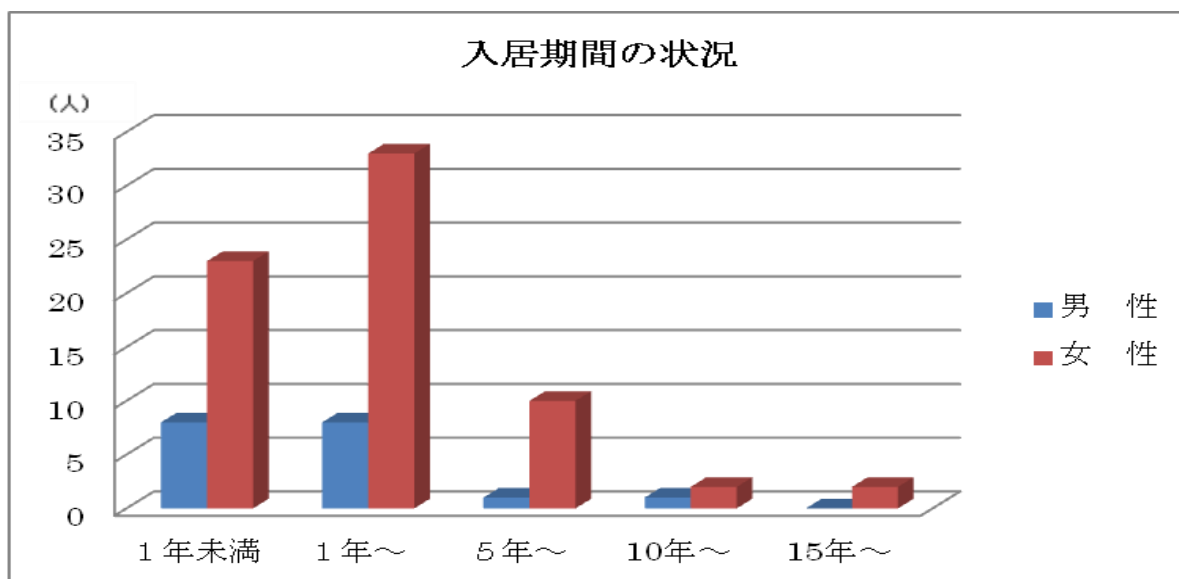
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
男性	0	1	4	6	7	18
女性	1	1	10	31	27	70
合計	1	2	14	37	34	88



(4) 入居期間の状況

平成 28 年 3 月 31 日現在

	1年未満	1年～	5年～	10年～	15年～	合 計
男 性	8	8	1	1	0	18
女 性	23	33	10	2	2	70
合 計	31	41	11	3	2	88



(5) 保険者別入居者数

平成 28 年 3 月 31 日現在

保 険 者 名	入 居 者 数		合 計
	男 性	女 性	
菰野町	9	30	39
四日市市	5	29	34
鈴鹿亀山	2	6	8
名古屋市	1	0	1
いなべ市	1	1	2
東員町	0	1	1
津市	0	1	1
松阪市	0	1	1
瀬戸市	0	1	1
合 計	18	70	88

※住所地特例施設ではあるが、やはり菰野町・四日市市という地元の方に多くご利用いただいていることが確認できた。

VIII. 居宅介護支援事業

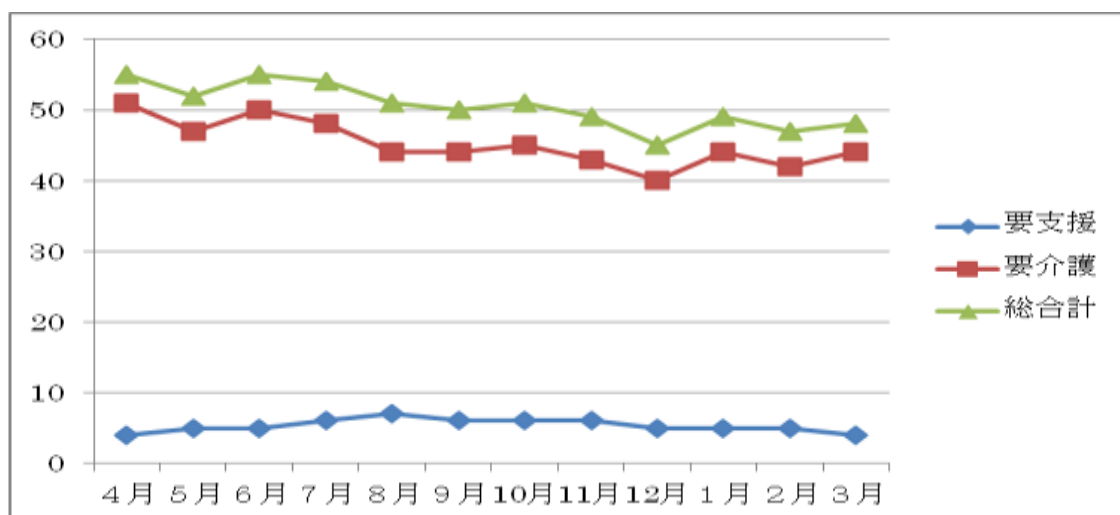
居宅介護支援事業の拡大、充実および他事業所との連携を強化するべく務めたが、介護支援専門員 1 名の退職による新規募集がスムーズに進まなかった経緯もあり、年度後半は利用者の縮小を余儀なくされた。

- (1) 併設の三重聖十字病院と緊密に連携をとり、在宅でのターミナルケア連携を支援するよう務めた。下期では病院の訪問看護との連携も試みた。
- (2) 地域包括支援センターとの連携を強化するべく、予防支援の委託も視野にいれながら新規獲得にも力を注いだが、上記の件もあり予定通りの結果を得ることはかなわなかった。
- (3) 他の医療機関や関係機関・事業所とも密接に関わり合い、効果的な在宅介護・看護が提供できる体制を構築できるよう努めた。
- (4) 以前に連携していた葬儀社の事業終了以降、地域の方に対する研修や情報提供等の依頼がなく、実施できていない。今後も機会があれば積極的に実施していく。また、スキルアップにつながる研修にはできる限りの時間調整をして積極的に参加できた。

居宅介護支援実績推移表（平成27年度）

（単位：人）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1
要支援2	3	4	4	5	6	5	5	5	3	3	3	3
要支援合計	4	5	5	6	7	6	6	6	5	5	5	4
要介護1	17	16	17	16	14	16	16	15	13	20	19	18
要介護2	15	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	11
要介護3	9	9	10	10	9	9	9	8	6	6	5	7
要介護4	8	8	8	8	8	7	7	7	8	6	6	8
要介護5	2	2	3	2	1	1	1	1	1	0	0	0
要介護合計	51	47	50	48	44	44	45	43	40	44	42	44
総合計	55	52	55	54	51	50	51	49	45	49	47	48



(A)

平成 27 年度
特別養護老人ホーム菰野聖十字の家 短期入所生活介護
事業報告書

I. 事業内容

- ・ 短期入所生活介護
- ・ 介護予防短期入所生活介護 7 床（併設型短期入所生活介護）

II. 運営の基本方針および事業目標

地域になくってはならない短期入所事業所としての位置づけを得るため、行政や他の事業所と連携し緊急利用の依頼には可能な限り対応するように努めた。また、その方の望む生活を維持するために、通常のサービスやリハビリテーションに加え、お話の傾聴、疼痛緩和、ご家族への連絡調整等を状況に合わせて実施し、最期までその人らしい人生を過ごしていただくため、各職種が協力しながら援助させていただいた。また医療、介護、リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用していただくことにより、心身機能の向上と、安心できる地域での生活をご支援できたと思う。実際の介護サービスの提供の場においては、現在のチームケア体制を中心に、できる限り在宅での生活の内容や環境を施設内で作りながら、利用者に寄り添い、より安心していただける関係を作り出すよう努めた。

また、その他のサービス提供の面では介護老人福祉施設の本事業に準じて、区別なく提供した。

III. 具体的な事業報告およびその内容

1. 在宅での生活状況に合わせた個別サービスの提供

事前面接訪問・居宅ケアプラン等による情報の収集により利用者一人ひとりの障害の状況や在宅での生活状況（ベッドの位置や介護用品等）に合わせて、ご家庭での生活を維持継続していく形を基本として、施設での生活環境を作り出した。また、趣味や教養娯楽活動についても、施設にある既存の活動内容だけでなく、ご自宅で実施されていた趣味的活動を可能な限り施設でも続けていただけるよう支援した。さらに、食事、入浴、排泄等介護サービス内容についても、利用者ご本人の意思や嗜好を十分に把握し、希望に沿ったサービスを提供した。

初回利用の方及び継続的に当施設の短期入所生活介護を利用されている方のサービス担当者会議には積極的に参加し、他事業所の意見、ご家族の現在の気持ち等を聞き、モニタリングを行うことにより、サービスの向上を目指した。

2. 地域連携を強化し、利用者を支えるトータルな在宅ケアの提供を進めていく

菰野町社会福祉協議会にて行われる、事業者会議及び地域ケア会議に毎月参加

した。地域福祉の現状や課題を知ることで、在宅におられる利用者へのサービス提供や利用者・家族との相談をスムーズに進めることができた。また、近隣福祉施設との交流を図ることで、在宅の福祉サービス困難者を地域で助けあい、援助させていただくことができた。

3. ご家族と密接にコミュニケーションを図り、ニーズの把握、効果的なサービス提供に努める。またショートステイ利用者の重度化に対応できる体制を整える

ケアマネジャーやご家族様に定期的な訪問や電話を行い、要望や注意事項などを伺った。それにより、個別のサービス提供の満足度向上につなげることができた。希望があれば理学療法士による専門的なりハビリも提供した。

利用者様の重度化に伴い増加している、ショートステイ中の体調不良やショートステイ中の死亡に対応できるようご家族様とのコミュニケーションを密にした。具体的には利用者様やご家族様の意向を確実に把握し、また主治医の往診、死亡診断が出来る体制をとった。

4. 柔軟にショートステイを受けられる体制を作る

ご家族に送迎いただければ、朝食時からの受け入れ又は夕食後までの受け入れに対応した。またご家族からの様々な送迎時間の要望にできる限り対応した。また、障害者支援施設との連携を図り、障害者の方と保護者（ご高齢の要介護者等）が同時に安心して利用できる体制を整えた。

5. 持ち物の紛失・忘れ物の防止

持ち物の紛失・忘れ物に全職員が責任を持てるようにした。具体的には紛失・忘れ物等の謝罪の電話は必ず担当職員が行い、忘れ物の場合は基本的に当日中に担当職員がご自宅に届ける体制とした。また「ショートステイ 忘れ物報告書」を新たに作成し、忘れ物をした際は、退去チェックした職員が忘れ物の種類、詳細、理由、再発防止策を記載するようにした。記載した内容を朝礼で3日間申し送り、掲示することにより同様の忘れ物を防ぐようにした。これらにより一人ひとりの職員に責任を持たすことができた。

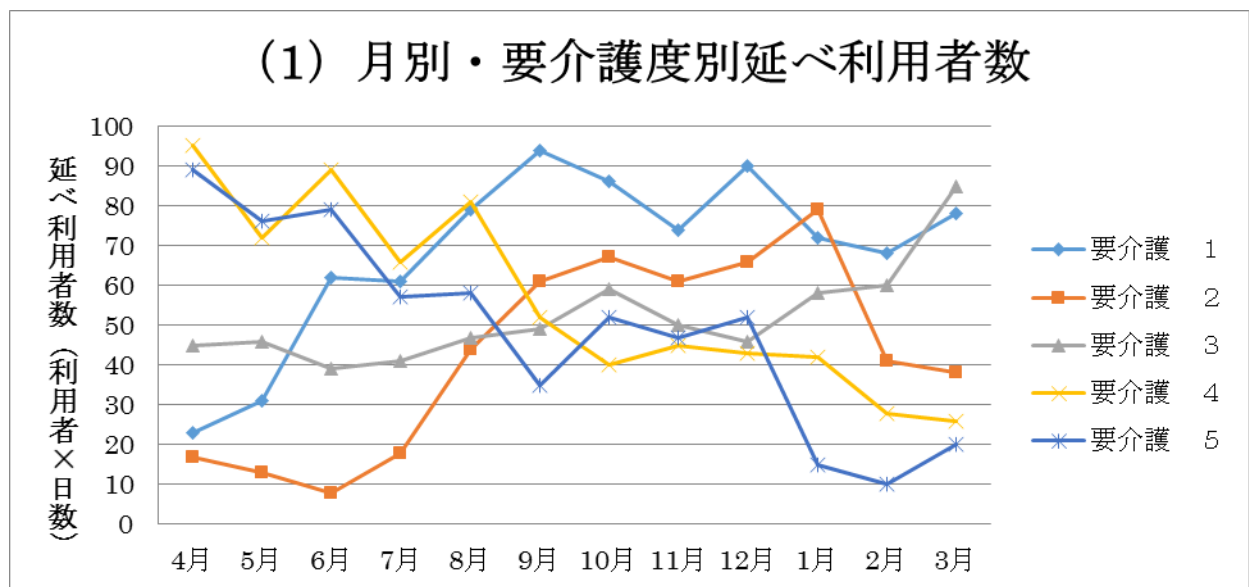
6. その他

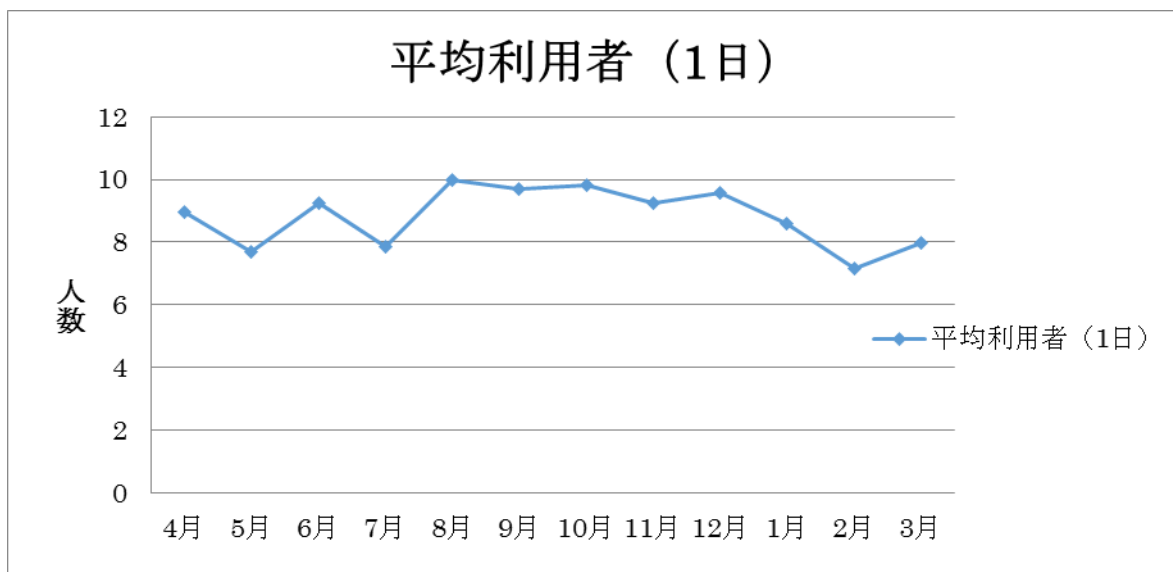
その他は介護老人福祉施設の併設事業であるため、本事業に準じている。

IV. 月別利用実績

月別短期入所生活介護利用人数(延べ)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1	23	31	62	61	79	94	86	74	90	72	68	78	818
要介護 2	17	13	8	18	44	61	67	61	66	79	41	38	513
要介護 3	45	46	39	41	47	49	59	50	46	58	60	85	625
要介護 4	95	72	89	66	81	52	40	45	43	42	28	26	679
要介護 5	89	76	79	57	58	35	52	47	52	15	10	20	590
合計	269	238	277	243	309	291	304	277	297	266	207	247	3225
平均利用者	8.96	7.67	9.23	7.84	9.97	9.7	9.8	9.23	9.58	8.58	7.14	7.96	8.84





※ 入居稼働率とは本入居、短期入所生活介護を含めた稼働率のことである。（100%で97床満床）

・平成28年度は年間を通して、これ以上ない高い水準で稼働率を維持する事ができた。（年間入居稼働率は99.4%）

年間を通してみると12月、1月は他の月に比べると稼働率の低い結果となった。これは12月に8名の死亡退居、1月に3名の死亡退居があった事とショートステイ利用予定者の体調不良、入院等における急なキャンセル等が12月、1月に集中した事が原因である。しかし死亡退居後、スムーズに本入居者を決定することで、2月、3月の稼働率は高い水準をキープすることができた。

**平成 27 年度
介護老人保健施設 聖十字ハイッ
事業報告書**

I. 事業内容

【介護保険施設サービス事業】

介護保険施設サービス事業（入居）：定員 100 名

短期入居療養介護事業・介護予防短期入居療養介護事業：1 床

【通所リハビリテーション事業】

通所リハビリテーション事業・介護予防通所リハビリテーション事業
：定員 15 人

II. 基本方針及び事業目標

医療と介護の役割分担と連携強化を図り、重度の要介護者や認知症の方々に医療・介護サービスを切れ目なく提供し、介護予防・重度化予防に取り組むとともに、地域の要介護者の中核拠点として、通所リハビリテーション・ショートステイ・入居等でリハビリテーションサービスを包括的に提供し、高齢者ができる限り住み慣れた地域で日常生活が営むことができるような支援を行うことを目標とし、以下の取り組みを実施した。

III. 平成 27 年度の主な取り組み内容（入居・短期入所部門）

1. 内部体制の整理と多職種連携の下での利用者サービスの提供

(1) 各種委員会の開催内容の整備

リスクマネジメント委員会・感染症委員会・褥瘡委員会・高齢者ケア検討委員会を整備発足。毎月最終金曜日に報告検討会議を行った。

(2) 研修の推進

職員のレベルアップを図るため、内部研修、外部研修ともに前年度より厳選し、回数を増やした。

(3) 新人教育プログラムの策定

高卒の新人職員が 5 名入社。これに伴い、実技と座学を併せた新人研修プログラムを組み立て、教育訓練を行った。

2. サービス担当者会議の充実

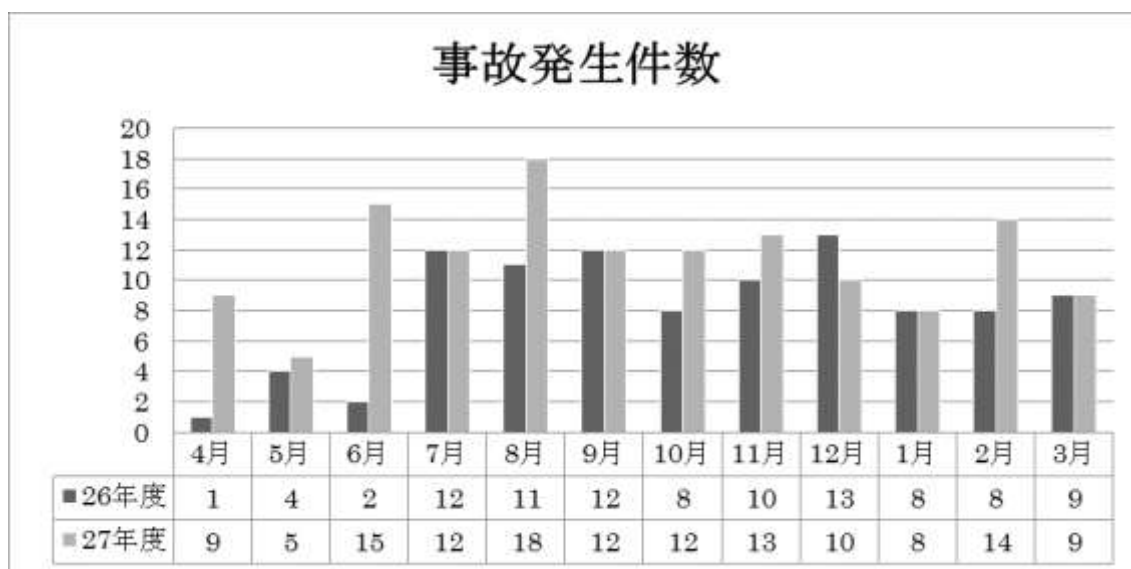
多職種連携を目指し、新入居時にはご家族を含めたサービス担当者会議を必ず開催することとした。また、フォローアップ会議なども開催していくこととした。

3. 利用者が安心され満足されるサービスの実施と残存機能を維持向上させる取り組み

- (1) 認知症ケアでは「利用者の話をじっくり聞く」取り組みを進め、日常の中での生活感覚を呼び起こす取り組みとして、園芸・学習療法等を実施した。
- (2) 理学療法士・作業療法士を中心に分析・評価を行い利用者一人ひとりの状態や希望に沿ったリハビリテーションを実施し、ADLの向上を目指した。
基本動作訓練の内容・・・寝返り訓練・起き上がり訓練・座位訓練・立ち上がり訓練・立位・バランス訓練・移動・移乗時訓練・歩行訓練
治療中訓練内容・・・基本動作訓練・呼吸・排痰訓練・疼痛に対する訓練・失行・失認に対する訓練・耐久力増強訓練・関節可動域訓練・筋力増強訓練
- (3) 音楽療法士（MT）を昨年に引き続き導入し、音楽を用いたより専門的なりハビリテーション活動を実施した。
- (4) 外部講師を招いてのバリテーション研究会を行った。
- (5) 作業療法士・看護、介護職員・ボランティアと連携しながら、認知症の方へのグループワーク・レクリエーション活動・リトミック等の音楽活動を行い、利用者一人に対してアプローチを深めた。
- (6) 嗜好調査の実施し利用者の食事形態・食事量を分析し、3ヶ月毎に利用者一人ひとりに合った栄養ケア計画を作成した。また、季節感を取り入れた食事提供と週1回以上の選択食を献立に取り入れ、食事の充実に努めた。
- (7) リスクマネジメント委員会を毎月開催し、その中で事故事例に分析・検討を行い、事故の原因及び再発防止策を明示し、具体的な対応方法の周知徹底を図った。

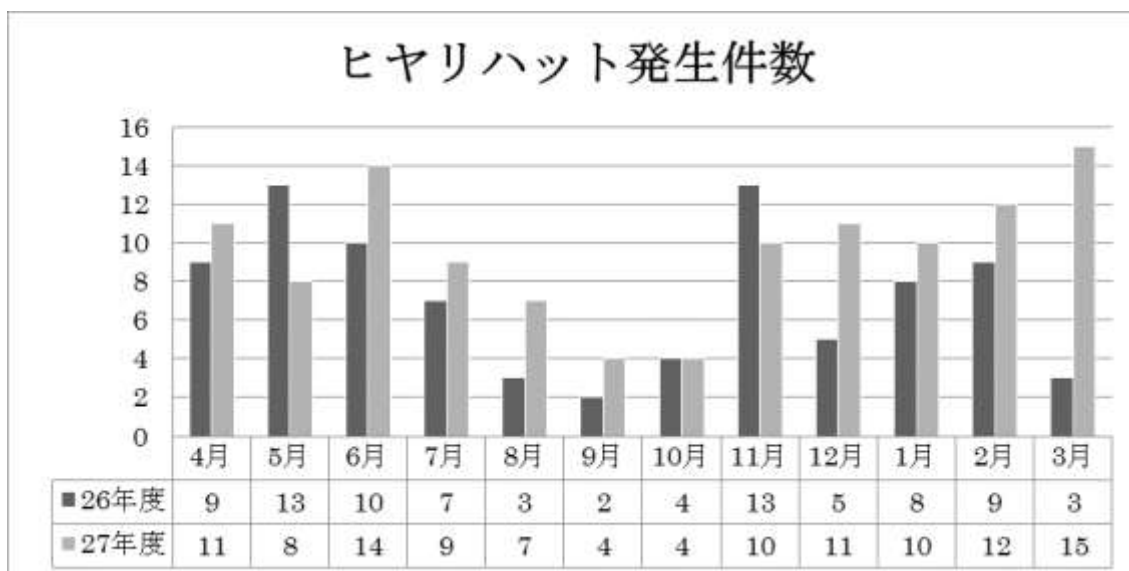
【リスクマネジメント資料】

資料1：【平成27年度 月間事故報告件数（事故報告）】前年比



※H26年の7月より表皮剥離を事故に含めることにしたため、報告される事故件数が増加。

資料 2 : 【平成 27 年度 月間事故報告件数（ヒヤリハット）】前年比



3. 職員のレベルアップを図るための教育・研修

(1) 研修計画を見直し、その計画に沿って研修を実施・参加した。

・職員研修の実施状況

資料 3 : <平成 27 年度 介護看護入居部門 **施設内専門研修**>

実施日	参加職員	内容
8月14日 ～9月12日	介護・看護	正しいポジショニング
8月14日 ～9月28日	介護・看護	褥瘡対策
9月23日 ～10月16日	介護・看護	人権研修
10月14日 ～10月28日	介護・看護	インフルエンザ・食中毒蔓延予防
12月7日 ～1月26日	介護・看護	腰痛予防
3月5日 ～2月9日	介護・看護	感染症予防
5月31日	介護・看護	バリデーション研究

資料3： <平成27年度 介護看護入居部門 施設外専門研修>

実施日	参加職員	内容
4月2日 ～3日	新入社員	ビジネスマナー研修
4月19日	作業療法士	関西バリデーション研究会
4月24日	新入社員	上級救命講習会
5月8日	理学療法士	生活行為向上リハビリテーション研修会
5月23日	理学療法士	地域包括ケアシステムの構築を実現するための退院支援を考える会
6月11日	介護職員・看護職員	菰野地域在宅医療・介護ネットワーク会議 H27年度 第1回研修会
7月26日	作業療法士	第20回 関西バリデーション研究会
8月8日	施設長	第1回 パーソンセンタードケアをともに深める会
8/月21日 ～10月9日	介護職員	喀痰吸引等研修
9月10日	介護職員・看護職員	認知症治療について
9月19日	理学療法士	「安全な気管吸引の実践」セミナー
9月22日	介護職員他	関西バリデーション研究会
10月1日	支援相談員	平成27年度 介護老人保健施設 人材マネジメント塾（福岡）
10月12日	作業療法士	バリデーションスペシャルワーク ショップ
10月23日	支援相談員	菰野町地域在宅医療・介護ネットワーク 会議
10月25日	理学療法士	三重県上肢外科研究会
11月12日	介護支援専門員	三重県介護支援専門員協会 松坂支部 第6回研究会
11月24日	施設長	菰野町社会福祉法人連絡協議会研修

実施日	参加職員	内容
12月2日	事務職員	退職手当共済制度実務研修
12月13日	理学療法士	三重県理学療法士会新人教育プログラム
12月16日	衛生管理者	介護労働者のメンタルヘルス
2月12日	介護支援専門員	菰野町介護支援専門員研修会（成年後見制度）
2月18日 ～2月19日	作業療法士	バリデーションフォローアップセミナー
3月18日	リーダー	適正なサービス提供のあり方について
3月18日	介護職員	三重県老人保健施設大会
3月26日	支援相談員 ・看護職員	介護施設で「生きる」を支える看取り介護の 実践

4. 快適な施設環境の維持

(1) 利用者満足度アンケートを8月に実施した。利用者様により満足していただける施設を目指し、施設サービス改善の一環として「第9回ご家族様へのアンケート」及び「平成27年度 施設職員の言葉遣い・態度に関する緊急アンケート」を実施。満足度を確認するとともに、職員による利用者に対しての呼称について、ご家族がどう考えておられるかの聞き取りを行った。

このアンケートの結果は、施設利用者・ご家族・職員が閲覧できるよう、敬老会に合わせて聖十字ハイツ1Fに掲示した（約1ヶ月間）。

また、利用者・ご家族の要望・苦情に関しては1Fに掲示するとともに、改善計画を作成し早急な対応に取り組んだ。

(2) インフラストラクチャーチェック・防災非難設備の自主チェックを毎月実施し、施設の老朽部分の保守・修理を行った。

【利用者アンケートについて】

ご利用者様及び、ご利用者のご家族様に対してアンケートを送付。統計を取った。

1. 対象者:平成27年8月1日においてご入居されている利用者様及び、利用者様のご家族様。
2. 回答者数 : 利用者様:29名/99名 ご家族様:74名/99名

3. 実施日：平成25年7月～8月
4. ご利用者様⇒「職員の態度や言葉遣いについて」といった10区分・計52項目について、「とても満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価(及び「未回答」の計6項目)での採点と、その他の聞き取りを行った。
5. ご家族様⇒「スタッフについて」といった5区分・計24項目について、「とても満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価(及び「未回答」の計6項目)での採点と、その他の聞き取りを行った。
6. 「施設職員の言葉遣い・態度に関する緊急アンケート」については、ご利用者様への職員からの呼称についてどう感じておられるかをご家族に伺うとともに、職員の言葉遣いの中で違和感を感じられたものについての聞き取り調査を行った。

5. 地域との交流

地域交流やボランティア体験・実習を以下のように実施した。

1. 運動会(10月：園児・地域住民・老人会との交流)
2. 常磐中学校(10月：福祉体験学習)
3. 敬老祝賀会(9月：家族との交流)
4. 聖十字看護専門学校(1～3月：老年看護学実習)

6. 年間行事

実施月	内容
4月	入居者お花見
5月	菖蒲湯
7月	七夕・盆踊り・火災訓練
8月	納涼会
9月	子供園との交流会・火災訓練
10月	運動会・中学校生徒による福祉体験実習
11月	こども園による「よさこいソーラン」実演
12月	入居者忘年会・餅つき大会
1月	新春カラオケ大会
2月	節分・初釜(裏千家)

7. 広報活動

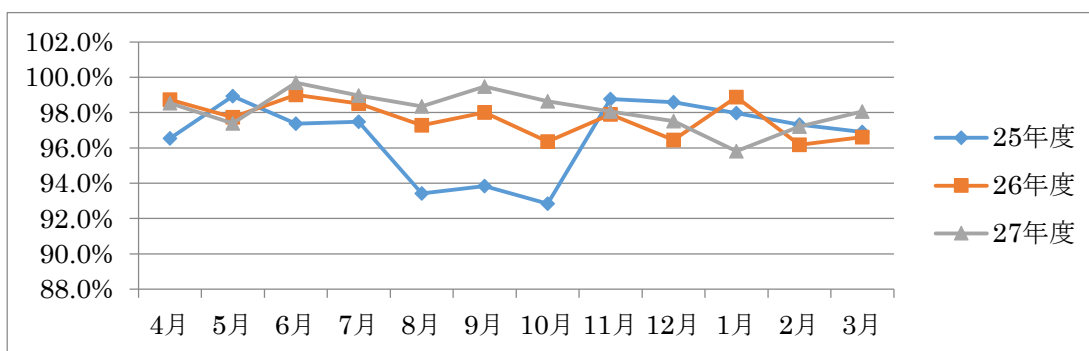
利用者に聖十字ハイツの理解を深めていただけるよう、施設での行事やレクレーション風景や職員紹介を写真やイラストを取り入れながら機関誌「もみの木」を年3回（5月・9月・1月）に発行した。

また、1月号からは、長年使用してきたデザイン等を大きく変更し、より聖十字ハイツに親しんでいただけるよう取り組んだ。

8. 介護老人保健施設ベッド稼働率、介護報酬の推移について

入居・ショートステイ合計 100 床のベッド稼働率については、平成 26 年度 97.64%に対し、平成 27 年度は 98.14%と、0.5%上昇した、しかしながら介護報酬改定、さらには、要介護度 1 および 2 の方の利用の増加に伴い、介護保険収入については、対前年比 0.23%増という状況になった。

ベッド稼働率推移（入居+短期）



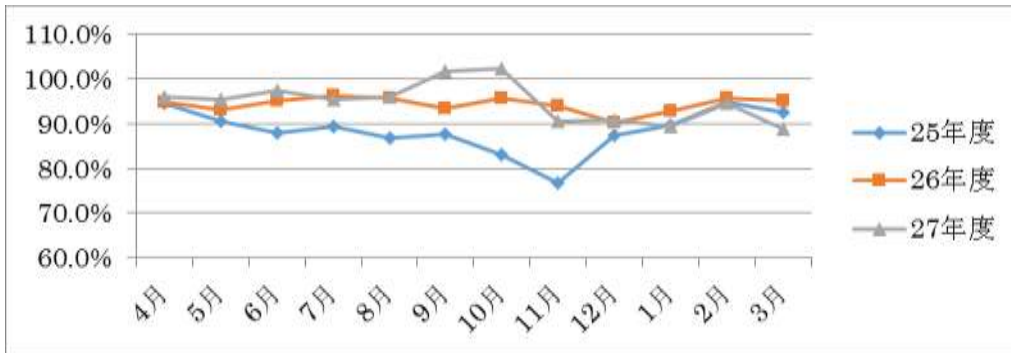
IV. 平成 27 年度の主な取り組み内容（通所リハビリテーション部門）

通所リハビリテーションについては、理学療法士の増員に伴い、より多くの利用者に専門的な個別リハビリを提供できる体制を整えた。また、季節の行事や、楽しみながら効果をもたらすリハビリ内容を盛り込み、多様なサービスの提供を行った。

今後の課題としては、個別リハビリテーション対象の利用者が減少し、介護予防対象の利用者が増加している傾向にあるため、新たなサービスの内容や、より喜んでいただけるリハ内容を構築するとともに、地域の医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所とも緊密に連携を取り、利用者の確保に努めていく。

利用稼働率については、昨年度の 94.35%より、27 年度は 94.89%と、0.54%上昇している。

利用稼働率推移 (通所リハ)



平成 27 年度
ケアハウス白百合ハイッ
事業報告書

I. 施設運営の基本方針

利用者の意思及び人格を尊重し、常にその方の立場に立った、人間性に満ちた必要なサービスを提供することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようにすることを目指した。また、利用者の方々が「白百合ハイッ」に入居したことを満足に思える環境を整えることを心掛け、サービス向上に取り組むこととした。

II. 具体的な事業計画

1. 自立生活が継続できる適切なサービスの提供

保険適用の有無を確認しつつ、それぞれのニーズに応じたサービスを提供する事業者を利用者と話し合いながら取り入れ、それにより自立した生活を継続できるよう支援を行った。

また、ケアマネジャーと相談し、補助具を居室内に配置することで転倒事故等を減少するよう取り組んだ。

ご家族と話し合う機会を設け、職員では対応できない範囲において（たとえば金銭管理等）協力をお願いし、入居者の安心できる環境を提供した。

ご家族や介護サービスで補えない場合は施設対応を継続していく。

2. 安心して快適に生活できる環境の整備

全体的な取り組みとして、意見交換会と題して定期的に相談、苦情等をお聞きし、改善等対応を行った。全体の場では話がしにくいと言われる方もおられ、随時個別に時間を設け、また居室を訪問し、物心ともに困っていることに関して傾聴、修繕等の対応を行った。

生活に関わる大切な情報提供については、随時必要な際に掲示板へ添付し、食事時などの全体が集まっている時間に口頭で説明を行った。

しかし、認知症の進行や視力、聴力が低下されている方が増加しており、伝達が上手く出来なかったことがあり、反省点として次回につなげたい。

施設設立から 18 年が経過し、設備が経年劣化している。修繕のきかないものもあり、入居者や業者と相談しながら随時対応した。

3. 施設の社会化を目指し、地域交流を積極的に行う。

日本舞踊や楽器演奏、手品などのボランティアを招き、交流を図った。

それだけでなく、看護学校の文化祭やこども園との交流、盆踊りへの参加が入居者

にとってよい刺激となった。

ADLの低下により外出自体が困難となってきた方が増えており、そのような入居者への地域交流のアプローチが不足していた。

4. 趣味活動、レクリエーションの充実を図る。

定期的に行う、うたの会、映画鑑賞、職員担当によるレクリエーションは引き続き行い、毎回3分の1程度の入居者が参加された。

外部（けやきやコミュニティーセンター）の催しやサークルへ参加される方もおられ、資料を取り寄せ、参加申し込みの手伝い等を行った。

ご夫婦で入居されている方で、介護が必要なため一人で出かけることが困難な事例があり、レスパイトケアを進めるうえで、ケアマネージャーと連絡をとりながら相談し、ご本人に提案した。

5. リスクマネジメントの強化

入居者の高齢化に伴い、転倒事故や、認知症による精神的な不穏からくる事故等が増加した。それに対し、介護保険サービスの利用や通院、入院の介助を行った。事前に、より情報を把握し緊急時の対応ができるよう、通院時や日常での声掛け、緊急時の連絡先の名簿作成などを行うことで、職員自身の関心を向上させるよう努めた。

6. 職員の資質向上・サービスの向上

業務に必要なスキルアップの為に外部研修への参加を行った。また、ケア部会の参加により他施設の取り組みや情報を共有することができ、より良いサービスの提供に役立てることができた。

高齢化する入居者に対し、これまでのサービスでは対応できないことも増えてきており、職員の意識改革を促すための職員ミーティングを随時開催した。

7. 避難訓練

他施設共同での訓練、そして白百合ハイツ独自の火災時の避難訓練を行った。実際にはしご車を上げることで避難時のルートや方法がより明確な形となった。その際に注意事項として挙げられたことを職員間で確認した。

8. 介護保険制度等の有効活用

要介護者が増加し、ショートステイ等のサービスを使用したい、また、デイサービスやヘルパーを利用したい入居者がおられ、それぞれに対応した。

今後介護保険サービスを利用したいという入居者のために、要介護認定の申し込みを随時行った。

9. 生活実態調査の実施

各居室を訪問し、居室の設備等とともに、衛生面や生活環境をチェックした。必要な修繕箇所は順次対応し、ご家族、ケアマネージャーと相談し、外部サービスの利用を取り入れた。

Ⅲ. 入居者の生きがい、仲間づくり、介護予防

(1) リハビリ訓練（実施時期：毎週土曜日）

利用者の身体機能の低下を防止することで、より安心して生き生きと明るく生活できるようにするため、専任のPT指導のもと、リラックス運動やゴム・竹などを使った「リハビリ訓練」を実施。定期的な体力測定により、リハビリ効果を実感され、新規入居者の方も参加された。

(2) 白百合喫茶（実施時期：毎月1回）

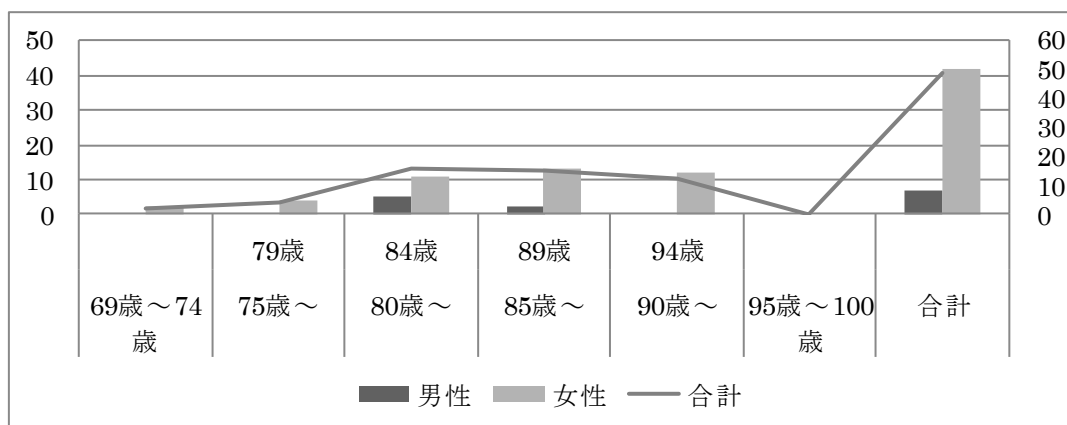
利用者間の交流の機会を促進することによって、居室の閉じこもりを防ぐ効果や、社交性の獲得への一助となった。

生活の質の向上のためにも利用者の方の要望に応じた創作活動や文化活動を例年に引き続き取り入れた。ボランティア来園によるレクリエーションは入居者だけでなく他施設の入居者も参加していただき交流ができた。

Ⅳ. 資料

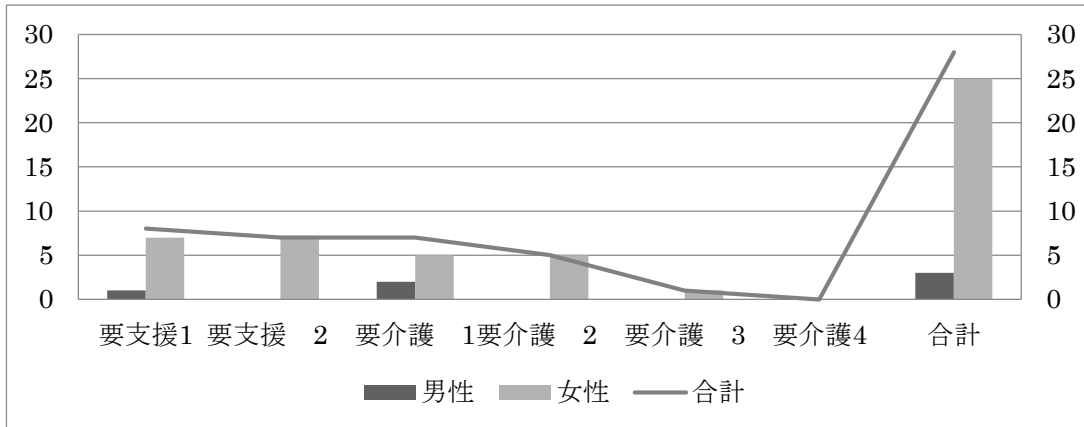
男女年齢別入居者数 平成28年3月末時点

	69歳～ 74歳	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳～ 89歳	90歳～ 94歳	95歳～ 100歳	合計
男性	0	0	5	2	0	0	7
女性	2	4	11	13	12	0	42
合計	2	4	16	13	12	0	49



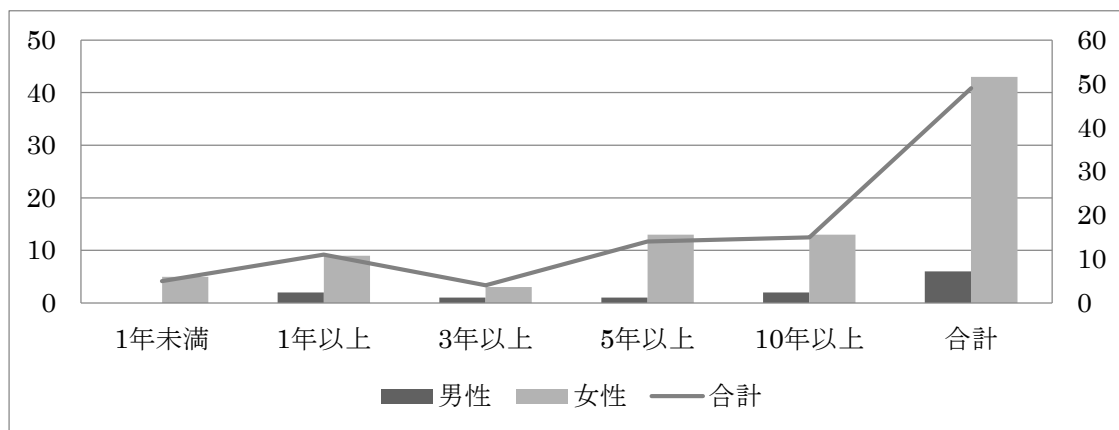
男女別要介護度 平成 28 年 3 月末時点

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	合計
男性	1	0	2	0	0	0	3
女性	7	7	5	5	1	0	25
合計	8	7	7	5	1	0	28



入居期間の状況 平成 28 年 3 月末時点

	1 年未満	1 年以上	3 年以上	5 年以上	10 年以上	合計
男性	0	2	1	1	2	6
女性	5	9	3	13	13	43
合計	5	11	4	14	15	49



平成 27 年度
認定こども園 聖マリアこども園
事業報告書

I. こども園の基本方針

神様によって与えられた命、一人ひとりの思いを尊重しながら、豊かな人格の基礎をつくるために、恵まれた環境を備え心身ともに健やかな成長を見守り支援し援助する。

II. 事業目標

小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を総合的に提供することによって、地域において子どもが健やかに育成される環境を整えるといった地域の幅広いニーズに応えられるようにする。家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切に、安心して過ごせる環境と質の高い保育・教育により子どもたちの育ちを保障していく。

月	事業内容 (行事)	行 事 目 標 (経験していくこと)	ね ら い (子どもの育ち)
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園式 ・ 新しいお友だちとあそぼう会 ・ 内科検診 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園を喜び、明るく元気に登園し園生活が楽しいと感じることで集団生活の楽しさを感じた。 ・ 異年齢の子どもたちと関わり楽しく過ごした。 ・ 日常生活に必要な基本的生活習慣が身に付くきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちとの関わりの中で、相手の存在や立場を理解し思いやりある優しい心を育てた。 ・ 自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身につけるきっかけとなった。
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気っ子の集い ・ 野菜の植付け ・ 親子遠足 ・ 自然の中であそぶ ・ 個人懇談会 ・ 尿、糞虫検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢児や先生、保護者との触れ合いを楽しんだ。 ・ 身近な植物を知り、親しみ土に触れて野菜の苗付けを楽しんだ。 ・ 身近な春の自然に触れて戸外であそぶことを楽しんだ。 ・ 身体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身につけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団としてのきまりが分かり、友だちとのつながりを広め一緒に活動することを楽しんだ。 ・ 春の自然に気づき関心を持って見たり触れたり植物の不思議さに気づき豊かな心情を育てた。 ・ 親子、友だち、先生と一緒に遠足に出かけ親しみや絆を深め、情緒の安定を図った。

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・花の日 (聖十字の家訪問) ・温泉水プールあそび ・保育参観 ・保護者対象講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで身近な人と関わり信頼感や愛情感じた。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 ・保護者の人と一緒にこども園で楽しいひと時を過ごした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や花に対する愛情を持ち、人権を大切にすることを育てた。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を図った。 ・園での生活を保護者に見てもらおう中で、楽しく過ごす中にもがんばる気持ちを持った。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕会 ・どろんこあそび ・歯科検診 ・温泉水プールあそび ・納涼会 (聖十字の家交流会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや思ったこと、想像したことなど色々な方法で自由に表現する。お話の世界を楽しんだ。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ちうがいや歯みがきなど予防に必要な活動を進んで行った。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 ・家族の人と一緒に行事に参加し、地域の方と触れ合い地域交流や施設交流を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕伝説に関心を持ち、様々な体験を通して豊かな感性を育てた。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。 ・周りの友だちに対する親しみを深め、集団の中で自己主張し、人の立場を考えながら行動する力を育てた。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を図った。 ・地域社会の中で安心できる居場所を感じた。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉水プールあそび ・どろんこまつり ・年長組お泊り保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 ・泥にまみれながらダイナミックにあそんだ。 ・自立自立に向けて保護者から離れて寝食を経験し、花火や夜のお散歩など夜のこども園を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心、応力に応じて全身を使って活動することにより身体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付けた。 ・園に泊まった喜びや自信、やり遂げた達成感を味わった。

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・敬老の日 (聖十字の家訪問) ・年長組社会見学 (町内5歳児とともに東山動物園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・火事や地震、不審者対策をなぜ繰り返し行っていくかを聞き、その重要性を感じた。 ・自分たちとの生活との関係に気づき生活経験を広めた。 ・集団行動の大切さを十分味わい、クラスや町内の5歳児とともに社会見学を楽しんだ。 ・いろいろな動物に興味・関心を持つ動物を愛し優しさが芽生えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に起こった時のことを考えて正しく行動しようとする姿を培った。 ・高齢者との関わりの中で信頼感や愛情、優しさを持ち、人権を大切にする心を育てた。 ・集団行動の楽しさを十分に味わい、共通の行事に参加し、仲間と協調したりする態度を身に着けるきっかけとなった。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・交流運動会 ・秋の遠足 ・ハロウィンパーティー (聖十字の家交流会) ・内科検診 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の入居者をはじめ地域など自分の生活に深い色々な人と触れ合い自分の感情や意志を表現しながらともに楽しんだ。 ・身近な社会や自然の環境と触れ合う中で発見を楽しんだり、美しさや不思議さを感じた。 ・身近な人と関わり信頼感や愛情を持って生活する態度を育てた。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ち健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に運動する中で、運動機能の発達を図るとともに、親や祖父母、地域の方の愛情に気づきそれらの人々を大切にしようとする気持ちを育てた。 ・秋の自然に関心を持ち、豊かな心情を育てた。 ・人との関わりの中で信頼感や愛情を持ち、人権を大切にする心を育てた。 ・自分の身体や、病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のこどもまつり (収穫感謝祭) ・焼き芋パーティー ・バルーン体験 ・自然の中であそぶ ・特別保育自由参観 ・ふれあいまつり (5才児作品展) 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然に触れ秋の実に感謝し味わった。 ・幅広い経験することによって想像性と創造性を伸ばし色々な人の働きを受け止め生活経験を広めた。 ・自然との触れ合いの中で発見や感動、驚きながら季節の移り変わりの様子や美しさに感動した。 ・地域の方と触れ合いながら、まつりを楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通して豊かな感性を育てる。 ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する心が育った。 ・体験を通して大自然の中にいる自分に気付かせた。 ・地域の方との交流をし温かさや地元愛を感じた。

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 ・クリスマスパーティ (聖十字の家訪問) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの意味を感じることができた。 ・様々な表現活動を通して、想像性と創造性を伸ばした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さに対する感覚を豊かにした。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年のご挨拶 (聖十字の家訪問) ・世界のあそび (伝承あそび) ・もちつき大会 ・給食自由参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始の伝統的な行事に関心が持てた。 ・身近な言葉やあそびに親しみ、それに合わせた体の動きを楽しんだ。 ・世界の伝統的なあそびを親しむ中で文字や数字などに興味が持てた。 ・普段の給食風景を保護者の人に見てもらい楽しいひと時を過ごした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で言葉への興味や関心を育てた。 ・人との関わりの中でいろいろな人たちにお世話になっていることを知るきっかけとなった。 ・身の回りに様々な人がいることを知り関わり大切さ、楽しさを味わった。 ・食べ物に興味や関心を持ち、進んで食べようとする気持ちを育てる食育に対する意識を深め、生きる力を養った。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・節分会 ・歯科検診 ・交通安全指導 ・冬の自然を見て歩く ・保育参観 ・特別保育自由参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分や鬼に関する絵本や話を見たり聞いたりし、異年齢で楽しい豆まきに参加した。 ・日常生活に必要な交通安全など、基本的な習慣や態度を養った。 ・早春に向かう自然の変化に気づくことができた。 ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いたり見たり、触れたりして興味・関心を広がった。 ・進んで検診を受け自分の健康に関心を持てた。 ・交通安全に必要な基本的な習慣、態度を身につけ、そのわけを知って行動する力が育った。 ・冬から春への季節の変化に気づき自然の恵みを感じた。 ・何事にも興味を持って取り組み、知識・意欲・態度を育てた。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別保育自由参観 ・ひなまつり会 ・お別れ会 ・春の自然を探して遊ぶ ・個人懇談会 ・終了式 ・卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げた。 ・一緒に過ごしてきた保育者や友だちとの愛情や信頼関係を分かち合うことだできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも興味を持って取り組み知識・意欲・態度を育てた。 ・一人ひとりを活かした集団を形成しながら人と関わる力を育てた。 ・集団生活の楽しさを味わい、仲間と協力する態度を身につけた。

3 月		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動することができた。 ・進学、進級への期待を膨らませ、家庭や保育者間の丁寧な連携の中で安心して卒園・進級することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って毎日の生活を過ごしながら新しい生活に対する期待感を持つことだ出来卒園や進級を迎えることができた。
--------	--	--	---

- ★ 誕生会 : 毎月第3木曜日(4・7・12月は第4木曜日)
※3月はひなまつり会と一緒にいった。
- ★ 礼 拝 : 毎月第1、3月曜日
- ★ 避難訓練 : 毎月末月曜日(地震・火災・不審者・土砂災害など)また、
消火訓練は毎月行った。
- ★ 身体測定 : 身長(4, 7, 10, 1月) 体重(毎月) 頭囲(7, 1月)
視力(2月3才児以上)
- ★ その他 : 5才児 … 毎月調理実習及び、講師による特別保育として、
英語・リトミック
(40回程度)お茶会、陶芸などの体験をした。
4才児 … 年5回程度調理実習及び、講師による特別保育
としてリトミック
(10月中旬から20回程度)などの体験をした。

**平成 27 年度
聖マリアこども園 子育て支援事業
事業報告書**

目 的 : 子育て相談や親子の集いの場を提供し、保護者への支援を通して子育て力の向上を支援する。

実施内容 : 毎週火曜日・木曜日 10:00~11:30
 子育て支援保育(あそびプログラム作成)
 月~金曜日 午前中 園庭開放
 毎月最終土曜日 9:30~11:30 親子クッキング・ママの趣味作り
 夏季温泉水あそび 10:00~11:00 子育て支援保育
 (7月初旬~8月中旬お盆前まで土日除く平日)

活動内容 : 4月~3月 毎週火曜日・木曜日 あそびプログラム
 毎月最終火曜日:誕生会(誕生児は手形か足型をとり手作りカード渡す)

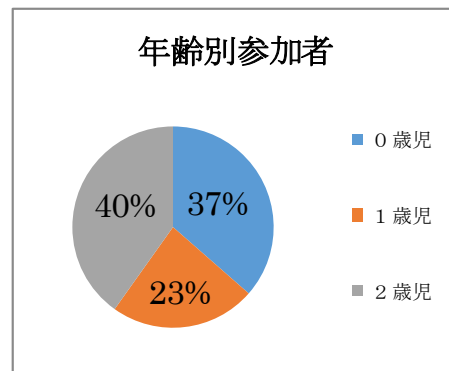
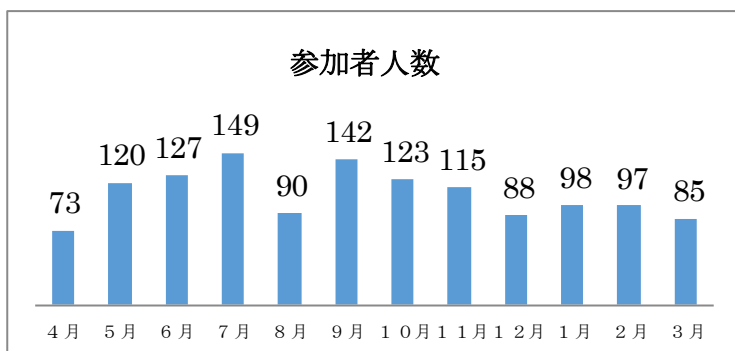
あそびプログラム内容

- ・玩具制作、身体測定、手・触れ合いあそび、体あそび、在園児とあそぼう、誕生会、園行事参加

*こいのぼりガーランド *お散歩かたつむり *ぷかぷかカメさん&バック(プールのおもちゃ)
 *とびだすロケット *牛乳パックカスタネット *ハロウィン帽子
 *ふわふわボールのボックスツリー *おにの帽子 *ゆらゆらお雛様 *掛け軸

◎最終土曜日:親子クッキング(5・6・8・9・10月)
 消しゴムはんこで布巾作り(7月)
 消しゴムはんこを彫ろう(11月・1月) ・入園グッズ作り(2月)
 今年度は、季節の野菜等を取り入れ旬を感じられるおやつ作りを取り入れた。

*ウインナーパン *おからクッキー *野菜プリッツ *かぼちゃポーロ *スイートポテト



- ◎ 今年度も「在園児とあそぼう会」を取り入れ、0～5歳児までの各クラスと年間を通して交流し、異年齢とふれあう事を目的としたあそびの場を設けた。
- ◎ 行事参加：盆踊り大会(7月)、交流運動会(10月)、餅つき(1月)参加。
- ◎ 年2回親子リトミック開催。(講師 廣瀬ふさえ先生) (10月・12月)
- ◎ 支援室保育だけでなく、園舎周辺への園外保育を取り入れ実施した。
- ◎ 今年度は在園児遠足時、お弁当を持参して園庭でランチを実施した。(自由参加・5月)
- ◎ 今年度は、ママ応援企画として最終土曜に『ママの趣味作り』・『入園グッズ作り』を実施した。(7月・11月・1月・2月)

平成27年度
聖十字保々在宅介護サービスセンター 通所介護事業
事業報告書

I. 事業内容

- (1) 通所介護事業 (定員 30名)
- (2) 介護予防通所介護事業

II. 施設サービスの目的

地域で生活される要支援・要介護の高齢者の方々に対して通所介護サービスを提供し、ご利用者の社会的孤立感の解消、および生活機能の維持・向上を図るとともに、ご家庭で介護される方の負担軽減を図ることを目的として、利用される皆様にご満足いただけるサービスの提供に努めた。

III. 通所介護サービス

(1) サービス内容

送迎・健康管理・入浴・排泄・食事・おやつ・リハビリ体操
レクリエーション・理髪(月1回)

(2) レクリエーション活動

毎日実施するレクリエーションでは、新規のメニューを増やすとともに、レギュラーメニューを毎日アレンジして計画的に実施した。

- ・ 脳トレ ・ カップ釣り ・ フリスビー ・ ホッケー ・ 射的 ・ 箱倒し
- ・ ダーツ ・ サイコロゲーム ・ タオル投げ ・ 風船投げ ・ 缶けり
- ・ 輪取り・ボールすくい ・ お手玉つかみ ・ 玉落とし ・ ボーリング
- ・ おはじき

(3) ボランティア

下記の内容のボランティアの受け入れを行い、利用者サービスの向上にご協力いただいた。

- ① 楽器演奏・歌・体操…地域住民を招待
(リズムメイトの会：四日市ボランティア)
- ② 交流 (保々小学校3年生児童)
- ③ 大正琴 (四日市シルバー人材センター)
- ④ 奉仕作業 (保々中学校3年生生徒)
- ⑤ 楽器演奏 (コカリナ楽しむ会)
- ⑥ 千羽鶴贈呈 (保々地区社会福祉協議会・保々小学校3年生児童)

(4) 年間行事

4月 「花見」	10月 「焼き芋」「神社参拝」
5月 「ドライブ」	11月 「ホットケーキ」
6月 「カステラ作り」	12月 「クリスマス会」
7月 「ドライブ」	1月 「初詣」
8月 「夏祭り（かき氷）」	2月 「節分」豆まき
9月 「たこ焼き作り」	3月 「たこ焼き会」

(5) 食事・おやつの提供

栄養摂取に配慮しながら、季節の食材を取り入れ、おいしい食事の提供に努めた。また、適宜「手作りおやつ」を提供し、ご利用者の皆様に喜んでいただいた。さらに市販の菓子を購入・日替わりで提供した。

(6) サービス向上のための取り組み

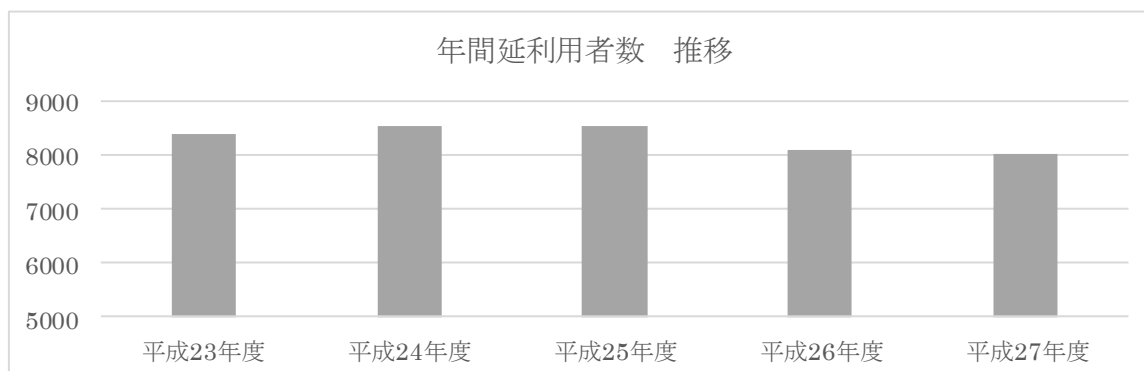
毎月、デイサービス会議（業務改善会議）を実施した。

IV. 通所介護利用状況

(1) 年間延利用者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	459	494	495	543	530	506	557	544	554	459	511	476	6,128
予防通所介護	158	158	185	178	150	147	168	137	156	162	130	165	1,894
計	617	652	680	721	680	653	725	681	710	621	641	641	8,022



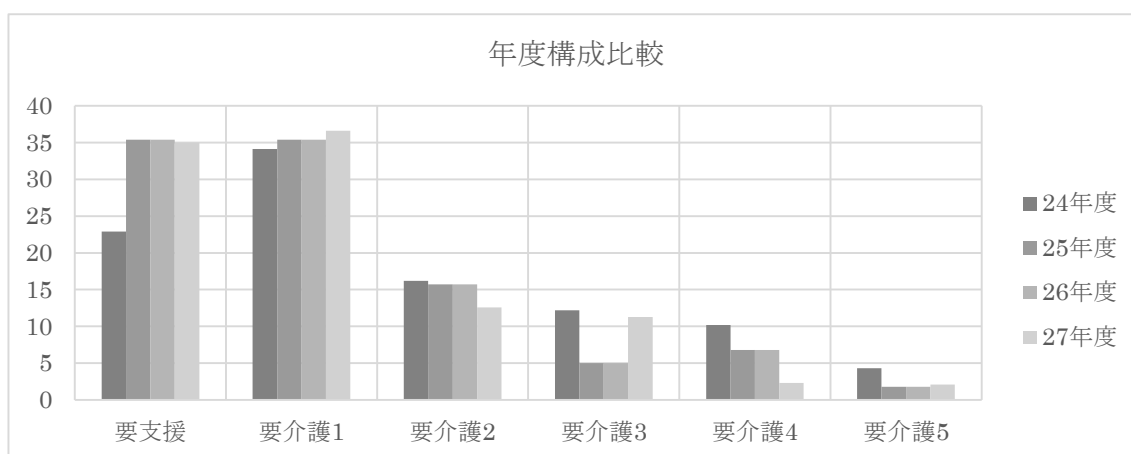
(2) 年間実利用者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	37	38	37	40	39	41	43	42	43	41	45	42	488
予防 通所介護	23	23	24	22	21	20	20	21	23	23	20	23	263
計	60	61	61	62	60	61	63	63	66	64	65	65	751

(3) 平成26年度・年間介護度（構成割合）

介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
実利用者内訳	263	275	95	85	17	16	751
構成割合	35.0%	36.6%	12.6%	11.3%	2.3%	2.1%	100%



V. 職員研修の状況

職員の資質向上を図るため、外部の研修に参加、および内部研修を行った。

(外部) 11/16 感染症対策研修会

1/19 ノロウィルス予防講習会

(内部) 6/26 接遇について

10/30 感染症予防と対策

3/28 人権研修（人権プラザ小牧 大窪館長講義）

**平成27年度
聖十字保々在宅介護サービスセンター 在宅介護支援センター事業
事業報告書**

I. 事業内容

- (1) 在宅介護相談事業 (四日市市委託事業)
- (2) 訪問給食事業 (同上)

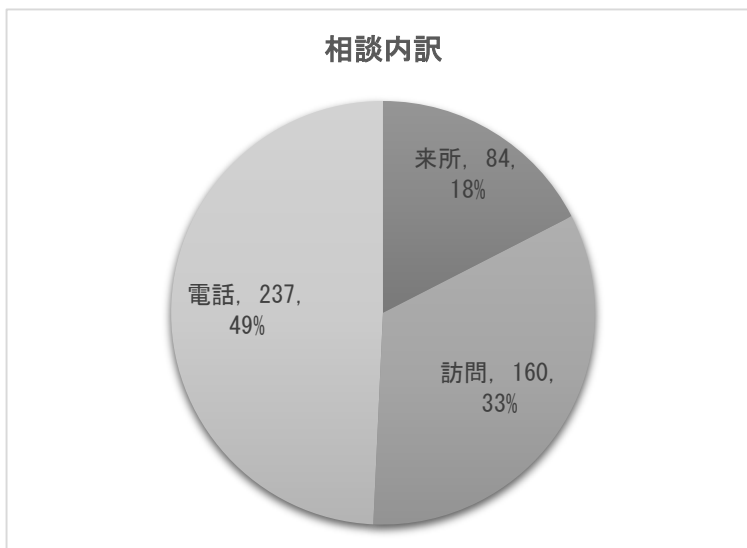
II. 事業の目的

四日市市の委託を受け、地域の福祉相談窓口として、訪問・電話による相談業務を実施した。また、地域の高齢者の実態把握に努めるとともに、地域の1人暮らし高齢者の方々への見守りを行うため、訪問給食を実施した。

III. 相談業務の実施状況

- (1) 高齢者関係

	本人	家族	その他	合計
来所	17件	63件	4件	84件
訪問	106件	50件	4件	160件
電話	32件	117件	88件	237件
合計	155件	230件	96件	481件



(2) 障がい関係

(身体障がい)	本人
来所	0件
訪問	2件
電話	2件
合計	4件

IV. 介護予防教室実施状況

介護予防教室 年間 7回開催

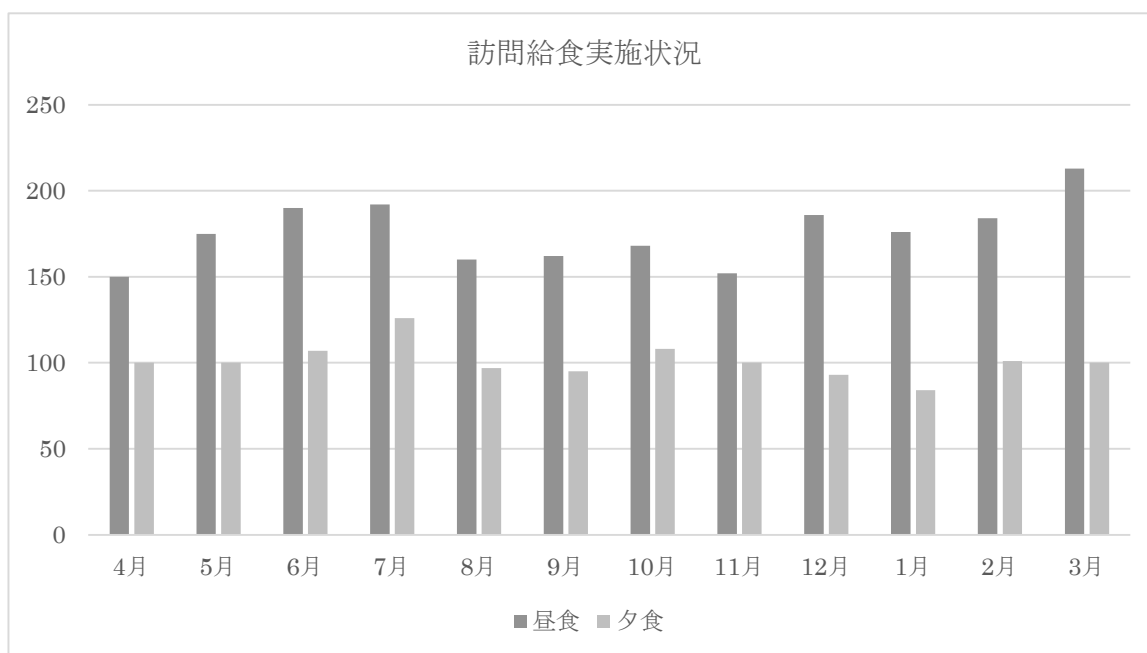
9/23	10/16	11/6	11/10	11/17	11/28	12/10
市場町	西村町	小牧町 南	小牧町 北	小牧町 西	中野町	西村町 新田

V. 地域との連携

- (1) 保々地区民生委員連絡会議に出席
年間 12回出席
- (2) 人権プラザ小牧との情報交換
年間 4回
- (3) 人権プラザ小牧運営協議会
年間 4回 (5/25、8/28、9/18、3/16)
- (4) 保々地区社会福祉協議会 桑の実会 サロン
- (5) 四日市市社会福祉協議会 サロン見学会
- (6) 福祉協力員研修会 認知症サポーター養成講座 (6/5)

VI. 訪問給食実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昼食	150	175	190	192	160	162	168	152	186	176	184	213	2,108
夕食	100	100	107	126	97	95	108	100	93	84	101	100	1,211
計	250	275	297	318	257	257	276	252	279	260	285	313	3,319



Ⅶ. 在宅介護支援センター運営会議の開催

実施日 平成 27 年 8 月 21 日
 出席者 四日市市役所介護高齢福祉課
 四日市市社会福祉協議会
 四日市市北地域包括支援センター
 連合自治会会長
 地区老人会会長
 地区社会福祉協議会
 地区民生委員会会長・副会長
 市民センター館長
 人権プラザ小牧
 当施設管理者・在介担当者

Ⅷ. 地域行事への参加

- ① 80 歳以上の高齢者の皆さんと一人暮らしの皆さんの集い
- ② 人権プラザ小牧 文化祭
- ③ 人権プラザ小牧運営協議会 (年間 4 回 5/25、8/28、9/18、3/16)

Ⅸ. 平成 27 年度「よっかいち・はつらつ健康塾！」の実施

実施日	内容	開催場所	参加人数(名)
4/28	介護予防	地区市民センター	4
5/26	腰痛予防	地区市民センター	6
6/23	認知症予防	地区市民センター	9
7/28	お口の健康	上条公会所	13
9/29	健康な食生活	新田公会所	24
10/29	転倒予防	西村町営農センター	14
11/17	高齢期の身体づくり	市場町公民館	20
12/5	認知症予防	小牧北公会所	25
3/29	フットケア	地区市民センター	9
合計			124

X. 認知症サポーター養成講座 開催

6月5日 保々地区社会福祉協議会・民生委員・福祉協力員
(保々地区市民センター2階会議室)

XI. 研修等実施状況

平成27年度 人権研修(3/28)
講師：人権プラザ小牧 館長 大窪弘樹氏

XII. 保々地区地域ケア会議の開催

① 保々地区個別レベル地域ケア会議

第1回

実施日 平成28年2月15日

参加者 四日市市役所介護高齢福祉課
四日市市社会福祉協議会
四日市市北地域包括支援センター
連合自治会会長
民生委員会会長
中野町中瀬古地区民生委員
地域マネージャー
菜の花 居宅介護支援事業所
聖十字四日市老人福祉施設 短期入所生活介護担当者
聖十字保々在宅介護支援センター

② 保々地区地域レベル地域ケア会議

第1回

実施日 平成27年8月21日

参加者 四日市市役所介護高齢福祉課
四日市市社会福祉協議会
四日市市北地域包括支援センター
連合自治会会長
地区老人会会長
地区社会福祉協議会
民生委員会長・副会長
市民センター館長
地域マネージャー
人権プラザ小牧
聖十字保々在宅介護支援センター

第2回

実施日 平成28年3月16日

参加者 四日市市役所介護高齢福祉課
四日市市社会福祉協議会
四日市市北地域包括支援センター
連合自治会会長
地区老人会会長
地区社会福祉協議会
民生委員会長
市民センター館長
聖十字保々在宅介護支援センター

平成27年度
聖十字四日市老人福祉施設
事業報告書

I. 事業内容

特別養護老人ホーム（地域密着型介護老人福祉施設） 定員29名

II. 事業内容全般

平成26年11月に開設した、鈴鹿聖十字会で初めてのユニット型特別養護老人ホームで、地域に密着した小規模の施設となっている。

全室個室で、トイレ、洗面台を完備し、ご自宅での生活同様にくつろぎのプライベート空間となるよう配慮し、ユニットは9名～10名ごとに分け、スタッフも担当制として、少人数で家庭的な雰囲気になじみのある環境の下で、ご要望や心身の状況に応じたサービスを提供できるようにしている。

III. 基本方針

「利用者の皆様が安全に、安心して、楽しく生活をしていただけるサービスを提供し、地域の福祉に貢献する」この方針を実現するため、以下のことを実施してきた。

① 安全について

- ・ 「感染症予防委員会」(特養と共通)を行い6月・10月・2月、対策を講じてきた。
12月から3月まで、手洗い・マスクの着用・来所者の手指消毒を徹底し、ご利用者のインフルエンザ罹患0人であった。
- ・ 「事故予防委員会」(特養と共通)7月・11月・2月開催。
転倒・転落・ずれ落ち : 事故15件 ヒヤリ15件
表皮剥離 : 事故10件 ヒヤリ5件
誤嚥 : 事故4件 ヒヤリ1件
- ・ 「褥瘡予防委員会」(特養と共通)6月・10月・2月
7月には三重大学病院の皮膚排泄ケア認定看護師が講師として来てくださり、「褥瘡」についての職員研修を行い、理解を深めることができた。
- ・ 「身体拘束廃止委員会」(特養と共通)7月・11月・2月に実施。身体拘束0人。
- ・ 「食事委員会」を開始した。

② 「楽しく」について

ご利用者の方にとって、食事は大きな楽しみとされている。個々の希望に応じた食事形態はもちろん、食べられないものはお聞きし、代替のメニューとして提供している。

定期的な行事食を計画し、平成27年度は以下のメニューを提供した。

4/30	春の散らし寿司	12/24.25	クリスマス照り焼きチキン ケーキ・ちらし寿司
5/5	こどもの日 鮭寿司	12/31	年越しソバ
7/7	七夕そうめん	1/1	お正月 おせち
8/13	お盆 おはぎ	2/3	ひなまつり うなぎチラシ
9/23	秋分の日お彼岸 おはぎ	3/3	節分 ちらし寿司
10/19	秋の松茸ごはん	3/21	春分の日 お彼岸 おはぎ

③ 行 事

『田園珈琲店』を毎月1回、地域交流スペースにて開催し、入居者、ショートステイご利用者はもちろん、事前にポスターにて予定を周知させていただき、ご家族も一緒に楽しんでいただくことができた。

4月6-9日	桜お花見ツアー（いなべ市大安町庁舎・北勢中央公園）
6月16-23日	あじさい見学（北勢町 万葉の里公園）
9月20日	敬老の日祝賀会 100歳の入居者様に内閣総理大臣からの記念品の贈呈。また、入居者全員に記念品と感謝状を贈呈。リズムメイト様による演奏。
10月12-16日	コスモス見学（三岐鉄道北勢線 東員駅・菰野町田光）
10月4日	四日市市総合防災訓練 保々小学校グラウンド 消防車の一斉放水やヘリコプターによる救助訓練等の見学
12月22日	クリスマス喫茶 ショートケーキ・どら焼き・プリンを用意 職員による「きよしこの夜」の生演奏
1月26日	初釜 お茶の先生に来ていただき皆様にお抹茶と和菓子で ゆったりとした時間をすごしていただく。
2月3日	節分豆まき 職員2名が赤鬼・青鬼に扮し、豆まきで楽しんでいただく。
3月2-11日	梅まつり見学（いなべ市藤原町）

④ 外出

4月の桜を皮切りに、6月あじさい 10月コスモス、3月ウメと、体調不良がければ、ほとんど全員の方に参加していただいた。

また、ご希望されるご家族には同行していただき、一緒に楽しんでいただくことができた。

1. 入居状況

性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	7	7	6	7	7	6	6	6	6	5	5	5
女性	21	21	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23
合計	28	28	27	29	29	29	29	29	29	28	28	28

(下記人数は各月末日時点の数字)

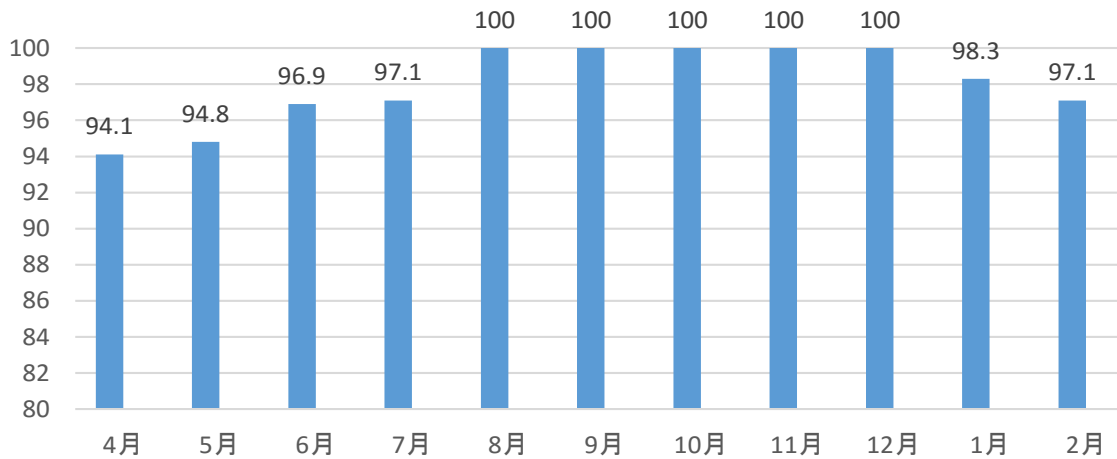
入居の稼働率は、開設9ヶ月目にやっと入居率100%とすることができた。

また、年間稼働率目標98%に近い、97.9%であった。

2. サービス延べ利用人数(人) 入所 (平成27年度) 稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員		29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
延べ 利用 人数	1	60	62	60	93	93	120	155	150	155	155	145	155	168
	2	120	141	90	93	93	71	62	60	62	62	87	93	363
	3	321	310	300	279	279	240	217	189	186	217	199	186	1,396
	4	180	140	196	186	186	180	186	180	186	186	174	186	1,042
	5	180	217	210	222	248	243	279	284	310	279	232	248	761
	合計	861	870	856	873	899	854	899	863	899	899	837	868	3,544
稼働率 %		94.1	94.8	96.9	97.1	100	100	100	100	100	98.3	97.1	96.7	97.9

入居稼働率



3. 年齢分布

年代	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
60歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳代	8	8	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6
80歳代	16	16	16	17	17	17	17	18	18	17	17	17
90歳以上	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
合計	28	28	28	29	29	29	29	29	29	28	28	28

9月の敬老の日には、100歳を迎えられるご入居者様に、内閣総理大臣より記念品が贈られた。

4. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	81.2	80.4	80.6	81.5	81.5	81.6	80.3	80.4	80.5	80.6	80.6	79.9
女性	84.1	84.1	84.3	84.4	84.5	84.5	84.6	85.1	84.9	85.0	85.1	85.2
合計	83.3	83.2	83.4	83.7	83.8	83.8	83.7	84.2	84.0	84.1	84.2	84.2

5. 要介護度分布

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	2	2	2	3	3	4	5	5	5	5	5	5
要介護2	4	5	3	3	3	3	2	2	2	2	3	3
要介護3	11	10	10	9	9	8	7	7	6	7	6	6
要介護4	6	5	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6
要介護5	6	7	7	8	8	9	9	10	10	9	8	8
合計	28	28	28	29	28	29	29	29	29	28	28	28

6. 平均要介護度

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	3.3	3.3	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3

7. 居住地区別分布 (四日市市) (平成28年3月末日現在)

地区名	人数	地区名	人数
保々地区	15名	桜地区	1名
海蔵地区	3名	三重地区	1名
県地区	2名	中部地区	2名
常盤地区	1名	神前地区	1名
下野地区	2名		

8. 月別入居者数

(平成27年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初人数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28
入居	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0
退居	死亡	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0
	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	他施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

昨年度は、死去された6名中5名の方を施設にて看取ることができた。

「いしが在宅ケアクリニック」の先生方と職員の連携により、また、ご家族も居室に泊まりこみ、看取ることができた。

IV. 職員の状況

1. 職員配置状況 (平成28年3月末日現在)

単位：人

職種	常勤専従	常勤兼務	非常勤専従	非常勤兼務	計	常勤換算数計
管理者		1			1	1.0
生活相談員	1				1	1.0
介護職員	12	1	4		17	15.2
看護職員		1	1	1	3	2.6
医師			1		1	0.1
栄養士	1				1	1.0
調理員		3		5	8	5.2
事務員	1		1		2	1.5
合計	15	6	7	6	34	27.5

※管理者の「常勤兼務」は、併設居宅介護支援事業との兼務。

※介護職員の「常勤兼務」は、介護支援専門員との兼務。

※看護職員の「常勤兼務」は、機能訓練指導員との兼務。

※看護職員・調理員の「非常勤兼務」は、併設デイサービスとの兼務。

2. 保有資格の状況 ※介護職員を除く（平成28年3月31日現在）単位：人

職 種	常勤換算数	関連資格名	保有人数（常勤換算）
管理者	1.0	社会福祉士	1.0
生活相談員	1.0	社会福祉士	1.0
看護職員	2.5	看護師	0.7
		準看護師	1.9
栄養士	1.0	管理栄養士	1.0

3. 介護職員の状況（平成28年3月31日現在） 単位：人

経験年数	介護福祉士取得者	介護福祉士未取得者	人数計
15年以上	2 (2.0)	0 (0.0)	2
10～14年	5 (5.0)	0 (0.0)	5
5～9年	0 (0.0)	0 (0.0)	0
1～4年	4 (3.0)	3 (2.5)	7
0～1年	1 (1.0)	2 (1.5)	3
計	12 (11.0)	5 (4.0)	17

※（ ）内は常勤換算数。

※「経験年数」には、他法人施設・事業所での経験を含む。

4. 研修の状況

- 6月17日 地域支援講習会「紙おむつの当て方・使い方」
三重県立総合医療センター（2名参加）
- 7月8日 食中毒・感染症予防講習会 四日市市総合会館（1名参加）
- 7月14日 施設内全体研修 「褥瘡について」
三重大学病院皮膚排泄ケア認定看護師（9名参加）
- 7月11日・9月12日 介護支援専門員専門研修過程Ⅰ（1名参加）
- 9月26日・10月18日・10月24日
介護支援専門員専門研修過程Ⅱ（1名参加）
- 11月20日 北地域医療介護ネットワーク会議勉強会
「四日市市の認知症施策の現状と課題」富田浜老人保健施設（1名参加）
- 12月2日 「社会福祉施設職員退職手当共済制度実務研修」
三重県教育文化会館（1名参加）
- 3月5日 介護福祉士初任者研修（2名参加）

5. 運営推進会議の開催

ご家族、地域の民生委員、市役所介護高齢福祉課、北地域包括支援センターの方々においていただき、現況報告、活動内容の報告を行った。

開催日

平成27年 6月24日

平成27年 8月27日

平成27年10月26日

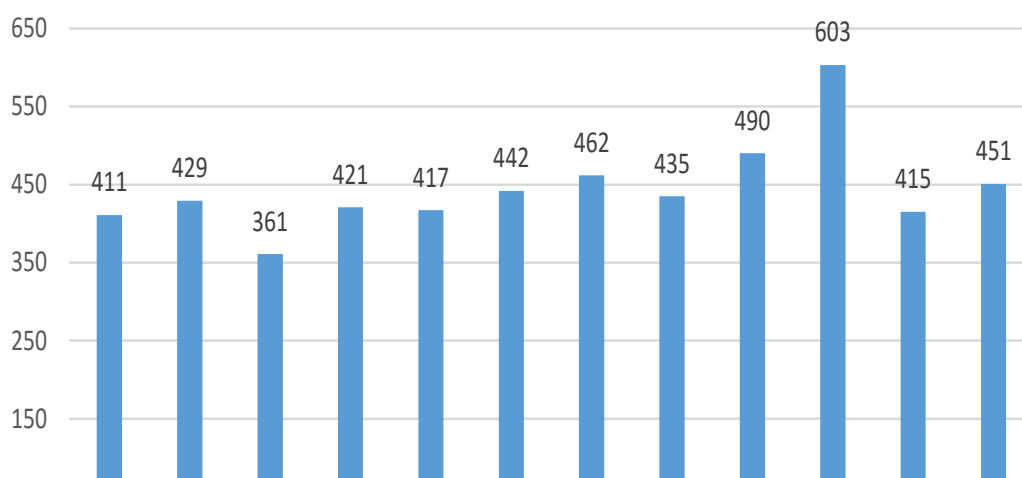
平成27年12月17日

平成28年 2月23日

6. 年間 延べ面会者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	411	429	361	421	417	442	462	435	490	603	415	451	5,337

面会延べ人数



毎日、多くのご家族様や知人の方の面会があった。

朝は7時から夜は19時くらいまで、ご家族のお仕事前後にお寄りいただいた。

年間延べ 5,337名 1日あたり14.6名のご訪問があった。

7. 法人ホームページのブログ

ホームページ「施設の四季だより」に、行事ごとの写真を多く掲載した。

外出時に同行されたご家族と利用者様の写真を、ホームページに掲載したところ「全国の離れた親戚に連絡し、写真を見てもらえた。ありがとう」と言葉をいただいた。

**平成27年度
聖十字四日市老人福祉施設 短期入居者生活介護
事業報告書**

I. 事業内容

特別養護老人ホーム（短期入所生活介護） 定員10名

II. 事業内容全般

平成26年11月に開設した、鈴鹿聖十字会で初めてのユニット型特別養護老人ホームに併設された短期入所生活介護施設である。

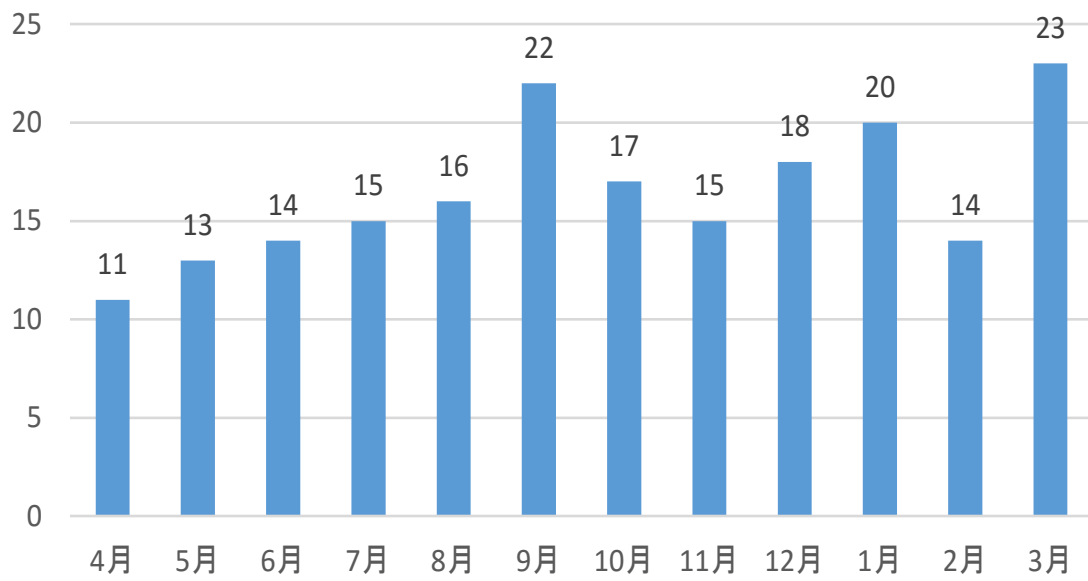
特養と同様、地域に密着した小規模の施設で、全室個室、トイレ、洗面台を完備しています。ショートステイ専用10名のユニットは、担当スタッフによる、少数で家庭的な雰囲気になじみのある環境の下でご要望や心身の状況に応じたサービスを提供できるよう配慮されている。

1 サービスの実利用人数（人） 短期入所生活介護（平成27年度）

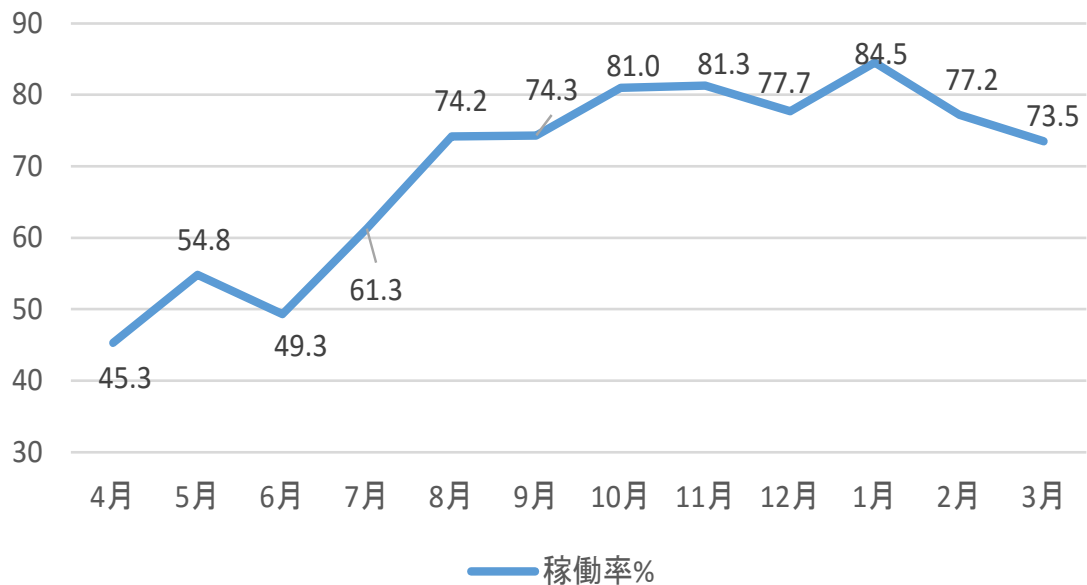
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
定員		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
実 利 用 人 数	支	0	0	0	1	2	1	2	2	1	2	0	2	13
	1	5	5	4	2	4	7	5	4	4	4	1	3	48
	2	2	3	4	4	4	4	2	3	6	5	5	8	50
	3	2	2	2	2	2	5	5	3	4	2	3	5	37
	4	2	2	2	3	2	3	2	2	3	6	5	5	37
	5	0	1	2	3	2	2	1	1	0	1	0	0	13
目	計	11	13	14	15	16	22	17	15	18	20	14	23	198
標 稼働率%		45.0	55.1	49.3	61.3	73.9	74.3	81.0	81.3	77.7	84.5	76.6	73.2	69.4

掲げていた、年間稼働率目標の90%には届かなかったが、稼働率は増えてきており、開設11ヶ月目で80%を超えることができた。（10月・11月・1月）

実利用者数



年間稼働率



近隣の病院、居宅介護支援事業所に、定期的に施設の紹介を行ってきており、利用者数も少しずつ増え、20名を越える月も出てきた。緊急対応で、新規申込日にお受け入れしたケースもあり、地域貢献できることにもなった。

平成27年度
三重聖十字病院
事業報告書

I. 事業内容

疼痛緩和医療事業 : 緩和ケア病棟での入院医療 25床

外来治療事業 : 精神科、内科、心療内科、神経科、神経内科、緩和ケア外来

II. 平成27年度の重点事業内容

1. チームワーク医療の充実を図り医療の質向上を目指す

北勢地区唯一の緩和ケア病院として、当法人の理念および基本的緩和ケア指針を全職員に徹底し、チームワーク医療を根幹とする緩和ケア理念の定着に努めた。

2. リスク管理の強化を図る

医療安全管理委員会を強化し誤薬、転倒転落などの事故防止・再発防止に努めた。また、施設管理、防災対策などあらゆるリスク管理を強化すると共にコンプライアンスの徹底を図った。

3. 緩和ケア外来および栄養管理の充実を図る

緩和ケア外来患者延数は381名（前年432名）と51名の減であった。また、栄養管理については、各部門の協力により安定したお食事を提供することができた。

4. 職員のレベルアップ

医師・看護師・MSW・栄養士・事務員など種々の職種が参加するケースカンファレンス、デスカンファレンスを定期的で開催、また、緩和ケア医療に有益な外部研修にも積極的に参加、職員のレベルアップを図った。

5. 医療報酬制度に即した医療体制の確立を図る

診療報酬の改定による制度の変化に対して、常に情報を収集し、柔軟かつ敏感に対応できるよう努めた。

6. 医療・看護体制の整備

常勤医師1名及び非常勤医師により常勤換算では4.45名となった。常勤看護師については19名を確保、非常勤を含めて常勤換算23.83名となり体制の充実を図った。

7. 環境及び施設の整備を進める

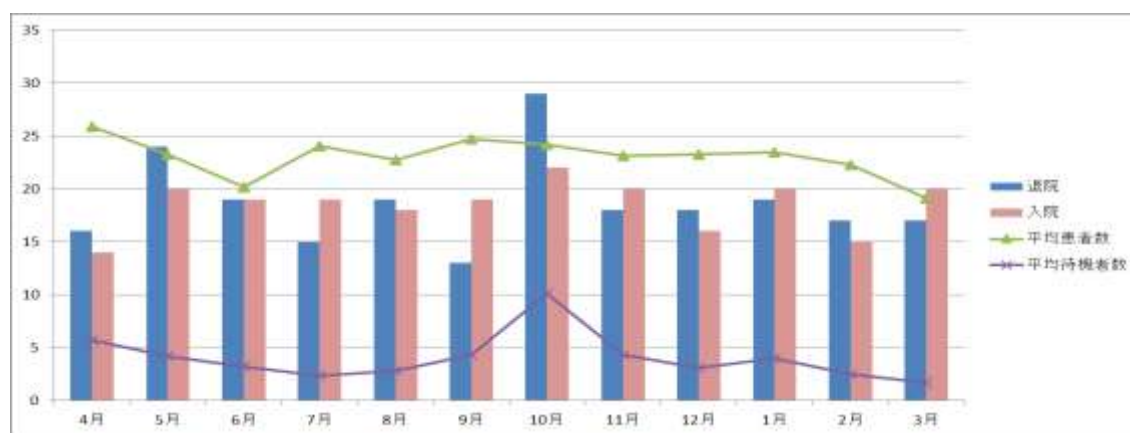
開院以来 10 年目を迎え、院内の設備にて経年劣化がひどい物については、随時交換し、医療機器等についても定期的に点検を行う等整備に努めた。

また、病院周辺の木について一部枯れているものについて、倒木の危険性を考慮し伐採を行った。

8. 経営の安定化を図る

開院以来の入院患者数は 2,061 名となった。27 年度の一日あたり平均入院患者数は 23.1 名。

平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
退院	16	24	19	15	19	13	29	18	18	19	17	17		224
入院	14	20	19	19	18	19	22	20	16	20	15	20		222
平均患者数	25.9	23.23	20.17	24.03	22.74	24.73	24.19	23.1	23.23	23.45	22.25	19.1	23	
平均待機者数	5.7	4.22	3.23	2.32	2.84	4.3	10.13	4.33	3.07	3.97	2.48	1.71	4.03	
在宅退院	1	1	1	1	1	2	3	1	0	1	0	1		13
外来から入院	5	1	1	3	5	6	5	5	2	5	3	5		46
延べ入院	777	720	605	745	705	742	750	693	720	727	654	592		8430



9 広報活動の強化及びボランティアなどの体制整備を進める

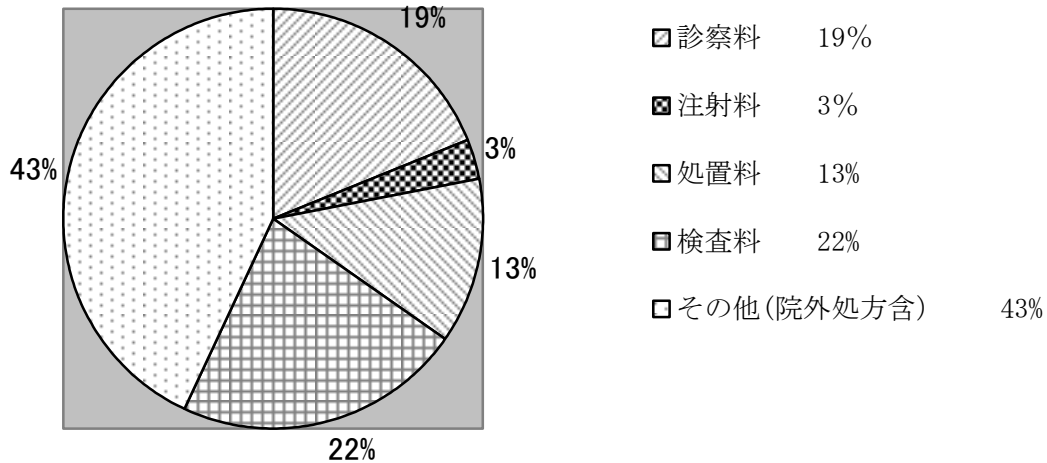
登録ボランティア 49 名。ボランティアの積極的な参加の推進を行った。

各種行事等の内容としては、月 1 回の家族会、年 2 回の遺族会、利用者とのティータイムなども定着、季節ごとのイベント(クリスマス会など)を実施した。

**平成27年度
菰野聖十字の家診療所
事業報告書**

I. 日常診療

ケアハウス、入居者、職員の診療。



平成27年1月より院外処方開始

	年間	月平均
特養	583	48.6
障害	318	26.5
白百合	345	28.8
職員	118	9.8

(臨時処方箋枚数)

II. インフルエンザ予防接種の実施

特 養	88 名
障 害	60 名
白百合	40 名
短期入所	2 名
職 員	199 名
合 計	389 名

III. 肺炎球菌予防接種の実施

新入居者など希望者のみに行った。(19名)

平成27年度
 聖十字保々在宅介護サービスセンター 居宅介護支援事業
 事業報告書

1. 事業内容

(1) 居宅介護支援事業

2. 事業の目的

ご利用者が、その方らしくご自宅で過ごせるために、ご本人・ご家族と相談しながら、毎月1回の訪問・モニタリング・アセスメントの実施を行い、ご本人の状況に合わせた、望まれる最良のサービスの構築・展開を図った。

また、ご本人、ご家族からの依頼により要介護認定の申請代行をおこなうとともに、ご本人、ご家族共にご満足いただけるケアプランの作成を行った。

他の事業者との連携を緊密に図るため、サービス担当者会議を行った。

3. 研修実施状況

(1) 四日市市介護保険サービス事業者連絡会居宅介護支援部会（1名出席）

4月17日・6月12日・8月18日・10月14日・12月14日・2月19日

(2) 「在宅で最期を迎えるということ～『いのち』を考える～」

講師：笹川内科胃腸科クリニック 山中賢治氏

「大切なひとを亡くすということ」

講師：三重県がん相談支援センター ファシリテーター 矢田俊量氏

4. 年間介護認定代行申請者数（新規、更新、変更）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	3	6	1	2	4	3
女性	1	2	2	5	3	3
計	4	8	3	7	7	6

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	2	0	3	3	2	5	34
女性	4	5	4	6	3	1	39
計	6	5	7	9	5	6	73

5. 居宅サービス計画（ケアプラン）実績

新規利用者の受入れを積極的に行った。年間延べ利用者数は 608 人となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	18	17	17	17	16	15
女性	31	33	32	34	34	36
計	49	50	49	51	50	51

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	15	15	15	16	16	14	191
女性	37	36	36	36	36	36	417
計	52	51	51	52	52	50	608

